55 広島県

◎建立者／遭難記念碑建立委員会　◎建立年／昭和四十五年九月十七日

京大原爆災害調査班遭難記念碑

昭和二十年九月十七日、鹿児島県枕崎に上陸し、後に枕崎台風と命名された超大型の台風は、九州、中国から日本海に抜け、東北地方に再上陸して甚大な災害を日本列島にもたらした。この台風によって広島県丸石川では大規模な土石流が発生し、下流部の大野陸軍病院を直撃。その結果、病院の職員と患者百五十六名が死亡し、さらに京都大学原子爆弾災害総合研究調査班の十一名を含む約二十名の犠牲者が発生した。碑は調査班の遭難を記念したものである。災害前後のいきさつについては、柳田邦男の「空白の天気図」にくわしく記載されている。なお、大野町では丸石川流域以外でも大きな山崩れが五十箇所ほどあり、土石流による全壊、流失家屋六十二戸、死者四十四名に達したという。

京都大学原爆災害総合研究調査班遺難記念碑の由来

昭和二十年広島の原爆被爆災害当時この地に隣接して約八百人を収容する大野陸軍病院があり、その中央の病院に約百名、また大野村の国民学校に約千五百名の被爆者が収容されていた。

昭和二十年八月二十七日中国軍管区指令部から原爆被爆者調査と早急なる対策樹立の為に研究員派遣の要請を受けた京都大学は、直ちに医学部の教授陣を中心とし、理学部、物理学者を加えた研究班を組織して来広、九月三日よりこの大野陸軍病院に本拠を置き、診療研究を開始した。所が九月十七日枕崎台風が襲った。同夜十時二十分頃山津波が起こり、一瞬にして大野陸軍病院の中を壊滅させ、山陽線路を超えて海中に押し流し砂中深く埋没せしめた。

このため同病院に入院中の被爆者の殆ど全員並びに職員合計百五十六名の尊い生命が奪われた。この中には京大真下教授(内科学)、杉山教授(病理学)以下研究班員十一人の殉職者が含まれていた。冷厳なる敗戦化にあって日夜原爆への対策調査、研究に献身し、しかもその犠牲となられた方々の業績を偲びその冥福を祈る為、現地である大野町に昭和四十五年九月この記念碑を建立した次第である。建立にあたっては、菊地武彦名誉教授を筆頭に、脇坂、木村名誉教授をはじめ京大関係者の尽力の許、広島県下の諸団体、広島県、市、大野町、原対協、芝蘭会広島支部その他多数の方々のご支援を戴いた。経費として、京都大学出身者、近畿財界の有志、広島芝蘭会会員及びその他の広島有志より寄付を頂戴した。土地は大野町より拝借しその管理は大野町にお願いした。

毎年九月十一日前後の休日を選び、碑の前に於いて京都大学及び広島芝蘭会支部主催で追悼会を行っている。芝蘭会広島支部内に「碑を守る会」事務所を置く。碑の設計者は京大増田友也教授である。

昭和五十三年七月吉日

京都大学

▶交通案内

◎JR山陽本線大野浦駅下車　車で10分

▶所在地

広島県佐伯郡大野町丸石

▶水系名及び渓流名

丸石川

▶問い合わせ先

広島県砂防課　電話082-228-2111

56 広島県 ◎建立者／杉山赤富士 ◎建立年／昭和三十一年五月

紅葉谷川 枕崎台風災害記念碑

昭和二十年九月十七日の枕崎台風は、死者、行方不明者三千七百五十六名、全半壊家屋十一万三千九百四十五戸、流失家屋二千五百四十六戸という大被害を日本列島にもたらした。広島県の被害も甚大で、とくに宮島町の紅葉谷川上流部では大規模な崩壊が発生。大量の土石流は下方の堰堤を跡形もなく押し流し、その余勢は厳島神社境内を侵して天神社、西回廊、長橋などを押しつぶした。堆積した土砂は実に一万立方メートルにも及んだ。

この記念碑はこのときの未曾有の災害を記念するとともに、再びこのような災害を繰り返さないように、後世の人が格段に山を愛することを念願して、昭和三十一年五月に災害時に流出した岩石の一つを利用して建立された。

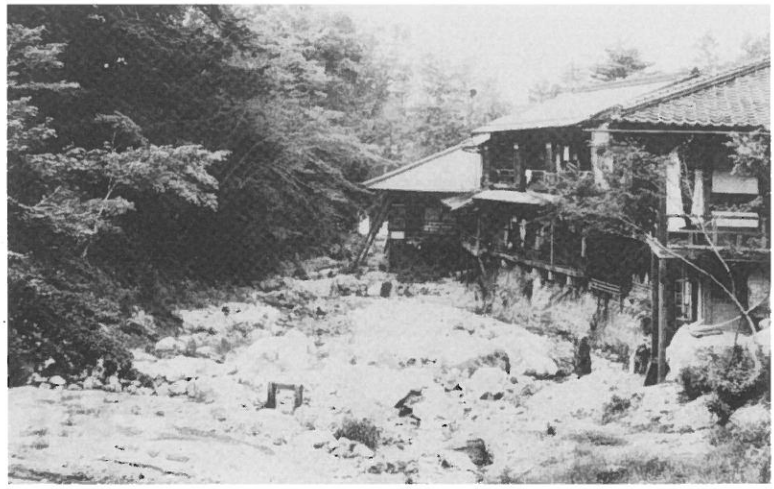
碑文

潮の香のみたらしふくみ初詣　爽雨

石の由来

昭和十年九月十七日、月餘りに亘った霖雨の後を受けて、比日の豪雨は物凄い洪水となり、紅葉谷川上流の御山には大変ながけ崩れを起こし、その下方にあった堰堤は跡形も無く押し流され、その余勢は神社境内を侵して天神社、西回廊、長橋などを押し潰し、堆積した土砂は一万立米以上におよんだ。その時付近に流出した老樹巨巌は数十個を数えたが、特にその内の一個を残して、之を記念すると共に再び斯様な災害を繰り返さないように、後世の人が格段に山を尊び山を愛するよすがとすることを念願する。

厳島神社



被災状況

▶交通案内

◎宮島港下船　徒歩約15分

▶所在地

広島県佐伯郡宮島町

▶水系名及び渓流名

紅葉谷川

▶問い合わせ先

広島県砂防課　電話082-228-2111

57 広島県

◎建立者／建立委員会　◎建立年／平成四年四月

ルース台風を偲ぶ

昭和二十年十月十四日夜半、広島県を襲ったルース台風の豪雨により、広島県佐伯郡湯来町でも未曾有の大洪水が発生し、河川の急速な氾濫によって四十名の尊い生命が家屋もろとも奪われた。また、道路、堤防、護岸の決壊、耕地の流失、埋没などの甚大な災害も生じた。

その後、尊い犠牲となられた人々の死を無駄にしないために村をあげて復旧に取り組み、その涙ぐましい長年の努力によって見事復興はなしとげられた。そこで平成四年四月、当時の惨状を「ルース台風の足跡」に記すとともに、あすなろを植樹し、石碑を建立。石碑は水内川流域に再びルース台風時のような災害が起きないことを祈願したものである。

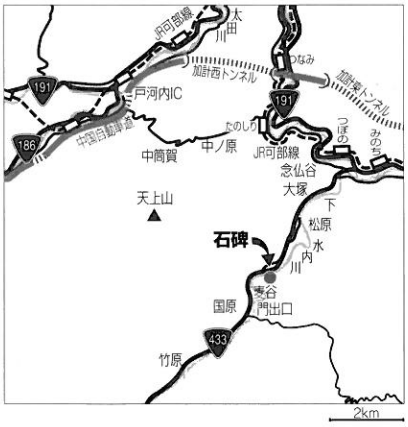
ルース台風を偲ぶ

昭和二十六年（一九五一年）十月十四日夜半、この地方を襲ったルース台風の豪雨で、未曾有の大洪水となり河川は急速な氾濫により四十名の尊い生命を家屋諸共奪い、道路、堤防、護岸の決壊、耕地の流失、埋没等の甚大な被害が生じた。

尊い犠牲となられた人々の死を無にすることなく復旧に挙村一致涙ぐましい努力により復興された。

当時の惨状を「ルース台風の足跡」に記し、「あすなろ」の植樹とこの碑を建立し水内川流域に再び災害の起きないことを祈念する。

平成四年四月
建立委員会



▶交通案内
◎国道433号水内大橋より約8km
▶所在地
広島県佐伯郡湯来町
▶水系名及び渓流名
太田川水系水内川
▶問い合わせ先
広島県砂防課　電話082-228-2111

58 群馬県

水害殉難者供養塔

◎建立者／丹羽秀三　◎建立年／昭和二十三年三月

昭和二十二年九月、マリアナ諸島の東方海上で発生したカスリン台風は、十五日夕、伊豆半島南方を通過。その後、房総半島南端をかすめて、東方海上に走り去った。この台風自体の勢力は弱く、しかも本土に上陸しなかったにもかかわらず、秋雨前線の活動との相乗効果によって群馬県に記録的な豪雨をもたらした。

なかでも渡良瀬川流域では、赤城、足尾山地で発生した土石流によって多数の死者、行方不明者を出すなどの甚大な被害を受けた。そのうち、桐生市では百二十六名もの人々が殉難しており、石碑は遭難者を供養するために、遭難者全員の名を刻み、翌二十三年三月に丹羽秀三氏が建立したものである。

被災状況

被災状況

▶交通案内

◎JR両毛線桐生駅下車桐生駅南口より
おりひめバス一本木会館行き新宿3丁目バス停下車　徒歩約5分

◎国道50号桐生市広沢町より国道122号へ　国道122号桐生市広沢4丁目
交差点を昭和橋方面へ　昭和橋を渡り2つ目の信号の先左折約200m

▶所在地

群馬県桐生市新宿3丁目地先定善寺

▶水系名及び渓流名

利根川水系渡良瀬川

▶問い合わせ先

建設省渡良瀬川工事事務所　砂防調査課　電話0284-73-5559

59

群馬県

◎建立者／赤城村長・下田八州太他遺族の方々

◎建立年／昭和五十四年九月十五日

水難者精霊之碑

昭和二十二年九月十四日から十五日にかけて、紀伊半島南方の洋上から北東に本州をかすめて東方海上へ抜けるコースをたどったカスリン台風は、関東地方一帯に襲いかかった。群馬県下では豪雨による山津波が発生し、赤城山を中心とした村落に多大な被害をもたらした。とくに赤城村は沼尾川ならびに天竜川、利根川沿いの被害が激しく、土石流は数々の集落を呑み込みつつ流れ去った。被害は死者、行方不明者八十三名、重傷者十四名、流失家屋百六十七戸、さらに浸水家屋は二百戸以上、宅地や田畑の流失埋没は五百七十ヘクタール以上にものぼり、罹災総人員は二千四百二十四名にも及んだ。この慰霊碑は、三十三回忌にあたる昭和五十四年九月十五日に建立されたものである。

慰霊碑

想えば昭和二十二年九月十五日関東地方一帯と奥羽地の一部を通り魔のように襲来したカスリン台風による災害は群馬県下では暴風による被害よりも豪雨による山津波から起こった被害がその大部分であり特に赤城山を中心とした村落の被害が多く中でも本村は沼尾川並びに天竜川利根川沿いに被害を蒙ったが最も悲惨をきわめたのは沼尾川沿いの地域であった

当時の状況記録によると赤城山も崩れるかと思われるばかりの大音響と同時に前山中山後入りの各窪から流れでた土石流によって深山村落の大半を根こそぎ押し流し日陰辻久保小川田清水年丸を経て利根川に至るまでの集落を呑みこみつつ流れ去った。

死者行方不明者八十三名重傷者十四名流失家屋百六十七戸その他浸水家屋等は二百戸以上に及び宅地田畑山林の流失埋没は五百七十ヘクタール以上と、われ罹災総人員は二千四百二十四人を数える未曽有の大災害であった

不帰の客となられた犠牲者の御無念はもとより住みなれた家を失い田畑山林を押し流され両親を失った子供夫に別れ妻を失い愛児を失う等一瞬の間に肉親を失った人達の当時の心境を思うとき今なお胸の痛む思いである

しかしながら被災者住民は不幸の内にも敢然と立ち上がり官民一体となって努力した結果今や当時の惨状をとどめぬまでに復旧し活気に満ち溢れ発展の一途をたどっている

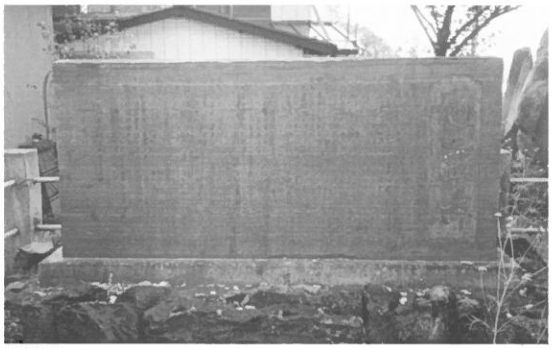
これもひとえに犠牲者諸霊の御加護の賜であり残された遺族を始め関係者各位の悲しみと苦難に満ちた努力の賜にほかならない

ここに三十三回忌を迎え遺族の手により慰霊の地蔵像を建立することは犠牲者への最善の供養でありかつ二度と繰り返してはならない災害の戒めともなる事績であり建立にあたり御苦労された関係者各位に深く敬意を表する次第である

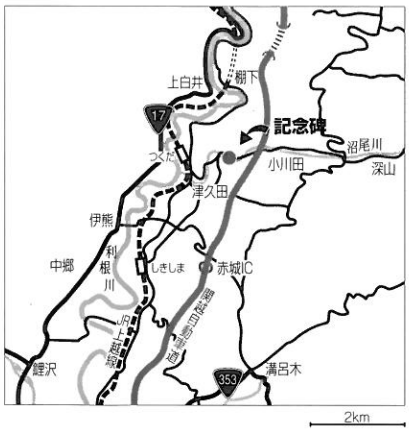
終わりに犠牲者の御霊安らかなれと祈りあわせて今後とも我が郷土の繁栄と平安を見守るとともに永遠の加護を念願するものである

昭和五十四年九月十五日　赤城村長　下田八洲太

沼尾川の被災状況



慰霊碑



▶交通案内

◎JR上越線津久田駅下車　車で5分

◎国道17号伊熊信号右　県道51号津久田信号左　津久田信号より約2km

▶所在地

群馬県勢多郡赤城村丸年地先

▶水系名及び渓流名

利根川左支沼尾川

▶問い合わせ先

建設省利根川水系砂防工事事務所　調査課

電話0279-22-4179

60 埼玉県

◎建立者／国神村（現在の皆野町）
◎建立年／昭和二十九年三月一日

砂防碑

昭和二十二年九月十四日から十五日にかけて、大型の台風が秩父地方を襲った。同地域の総雨量は三五九・八ミリと極めて多く、明治四十三年以来の大水害に見舞われて蟹沢地区一帯の耕地は洪水によって跡形もなく流失した。

このため蟹沢砂防期成同盟会が結成され、昭和二十三年春より流路工が着工された。工事は護岸の延長一七〇〇メートルの他、堰堤・水制などが施工された。

流失地の回復に寄与した同事業は、昭和二十九年に総工費二六〇〇万円、就労人員延べ九万人を要して完成した。

石碑は昭和二十九年三月一日、砂防工事の竣工を記念して建立されたものである。

表面

砂防碑

全国治水砂防協会　徳川家正謹書

裏面

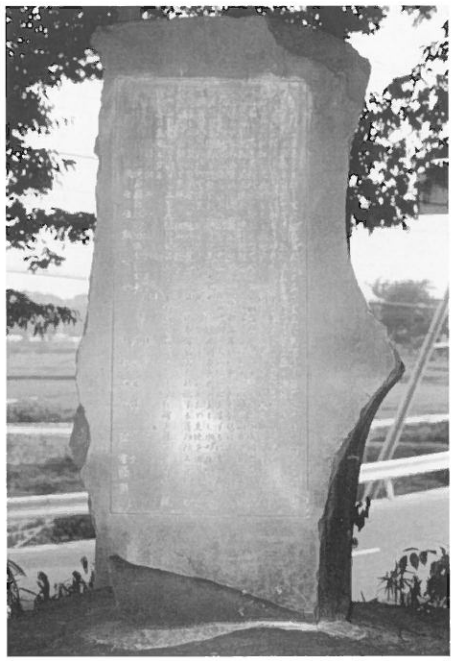
国破れて山河ありとか、洵に大東亜戦后の山川国土は荒涼たる姿であった。加うるに頻襲せる颱風雨は洪水となって河岸を削り沃土を流して被害は益々拡大した。本村も亦この例にもれず、昭和二十二年秋の出水を転機として、蟹沢並に此れが流注する荒川沿岸一帯の耕地は流失すること数町歩に及ぶ。関係農民はもとより村民これを心痛焦燥すること甚し。不肖国神村長の職にあって之を憂へ、村議会に謀って蟹沢砂防期成同盟会を結成して、国県当局並に関係議会に陳情請願すること数次、幸にして県河川当局の認むる所となり昭和二十三年春、蟹沢流域は秩父砂防事務所　荒川沿岸は秩父土木工営所によって着工。以来年々拡張施工せられ今や工事は完成し　流域一帯は一大城壁の観を呈するに至った。

茲に工事概要を摘記すれば護岸延長一、七〇〇米、堰堤水制各5本を主とし水叩・床固等合せて総工費實に二、六〇〇万円、就労人員無慮九〇、〇〇〇人を算す。これがため失地を恢復し災害を防止し、以って国土を保全して治水の実を挙げ、且つ地方労務者を救済する等砂防工事による広大無辺の恵沢を村民済しく讃美謳歌す。茲に工事完成を機として工事見張所跡に地を卜し、神域を背景として記念碑を建て以って村民感謝歓喜の象徴とする。

昭和二十九年三月一日

埼玉県治水砂防協会副会長　久米弁作　撰文

従七位・勲七等　小林行一　謹書



▶交通案内

◎秩父鉄道皆野駅下車 町営バスいろは橋行き国神郵便局バス停下車 徒歩2分

◎国道140号親鼻橋交差点より2.2km

▶所在地

埼玉県秩父郡皆野町大字国神地先

▶水系名及び渓流名

荒川水系日野沢川

▶問い合わせ先

埼玉県ダム砂防課　電話048-830-5155

61 岩手県

治水記念碑

◎建立者／青笹村長　沼里未吉　◎建立年／昭和二十九年四月

昭和二十三年（一九四八年）のアイオン台風は、九月十五日から十六日にかけて岩手県を襲い、一関、遠野、宮古を結ぶ一帯が、二百五十ミリから三百ミリに及ぶ豪雨となった。しかも、雨量が四時間ほどの短時間に集中したために、上流部の小河川で洪水、氾濫が続発した。遠野地方では十名の死者を出すなどの惨事となった。

中沢川では青笹村の道路が冠水、橋梁の全てを流し去り、建物二棟も流失。耕地の埋没は五十町歩余りに及んだ。復旧工事は翌二十四年二月に着手し、上流に砂防堰堤、さらに護岸、床固工等を進め、二十七年六月に完成を見ることができた。

石碑はその工事完成に当たって、来歴と関係者への感謝を記したものである。

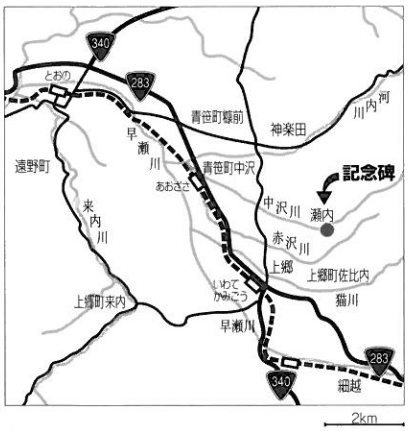
治水記念碑

昭和二十三年九月十五日朝来の豪雨は翌十六日に至りアイオン台風と化し雨量二八十余ミリとなり終に中沢川の増水氾濫は其極に達し道路橋梁は全ては壊滅し数戸の人家危険に瀕し流失建物二棟耕地の決壊埋没五十余町歩に及ぶ其被害甚大にして惨状全く言語に絶し本村は直ちにこれが修復を企て全村民跳起して其実現に努力し遂に県当局の積極的協力を得るに至り昭和二十三年十一月八日建設省木村技官の現地踏破の査定を受け深き同情と大英断のたまものにより大方針決定し遠野土木事務所の絶大な援助を得て復旧工事の実施設計なり翌二十四年二月四日道路工事に着手次で上流に砂防堰堤工事の着工を見更に護岸床固工河川修繕工事等を進め昭和二十七年六月此全工事総工費四、六六二万七四八二円を要して完成す

因って茲に之を録して後世に伝ふ

昭和二十九年四月　青笹村長　沼里末吉　建之

工藤千歳　撰



▶交通案内

◎JR釜石線遠野駅下車　早池峰バス足ヶ瀬行き青笹バス停下車　徒歩約45分

JR釜石線青笹駅下車徒歩50分

◎国道283号青笹交差点より3km　車で約5分

▶所在地

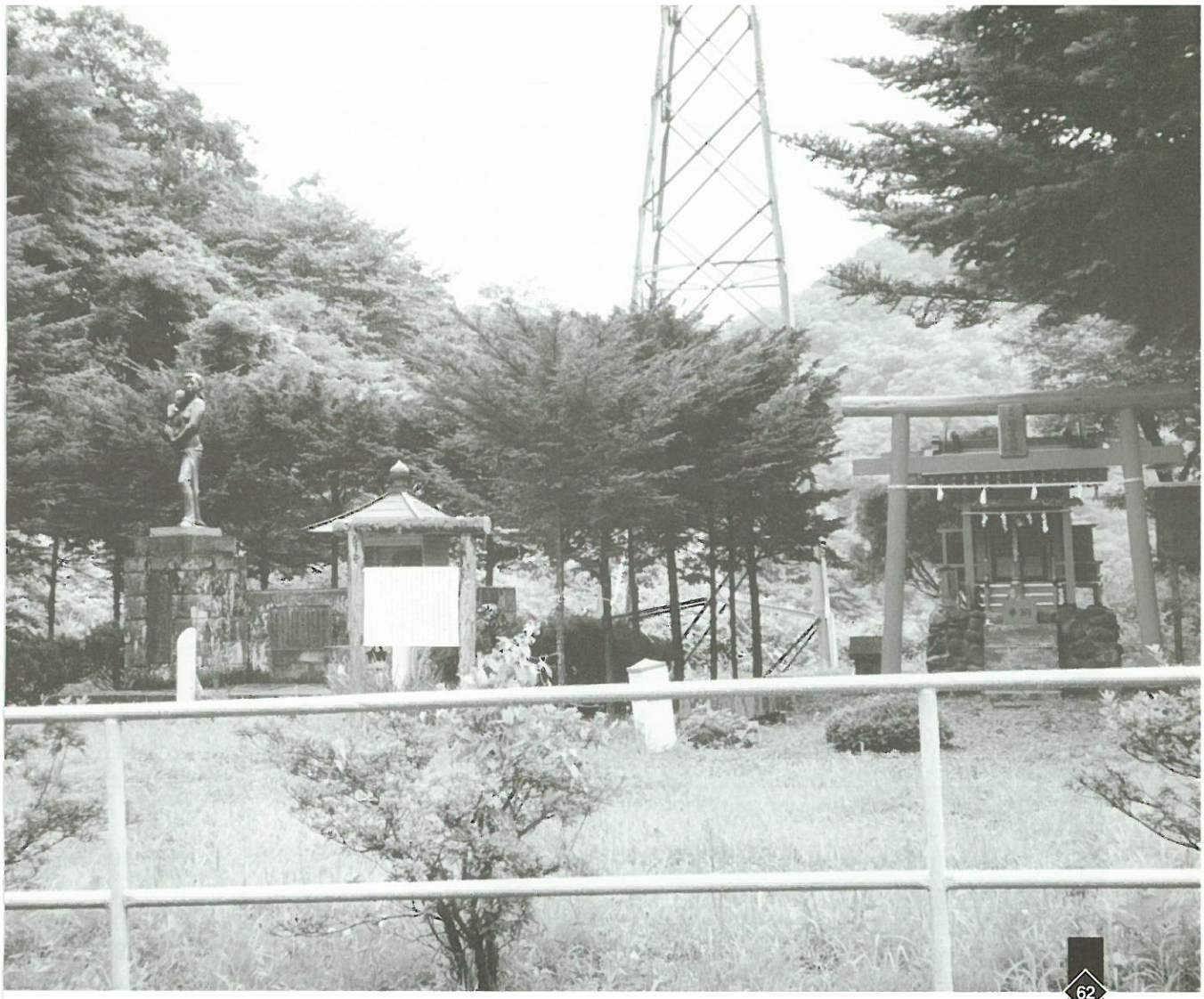
岩手県遠野市青笹町中沢字瀬内地先

▶水系名及び渓流名

北上川水系中沢川

▶問い合わせ先

岩手県砂防課　電話0196-51-3111



62 群馬県

熊の平殉難碑

◎建立者／日本国有鉄道総裁　◎建立年／昭和四十四年十一月

昭和二十五年（一九五〇年）六月八日夜、信越線の熊の平駅（群馬県碓氷郡松井田町）は巨大な土砂崩れに襲われた。降り続いた雨のため、構内の東側トンネル出口の北側斜面が崩れ落ちて線路を埋め、列車の通行が不可能となった。横川保線区では徹夜で土砂の除去を急いだ。ほぼ、それが完了して、二次災害を避け避難していた家族が、官舎のわが家に帰り朝食の支度にかかった直後、悲劇は起こったのである。

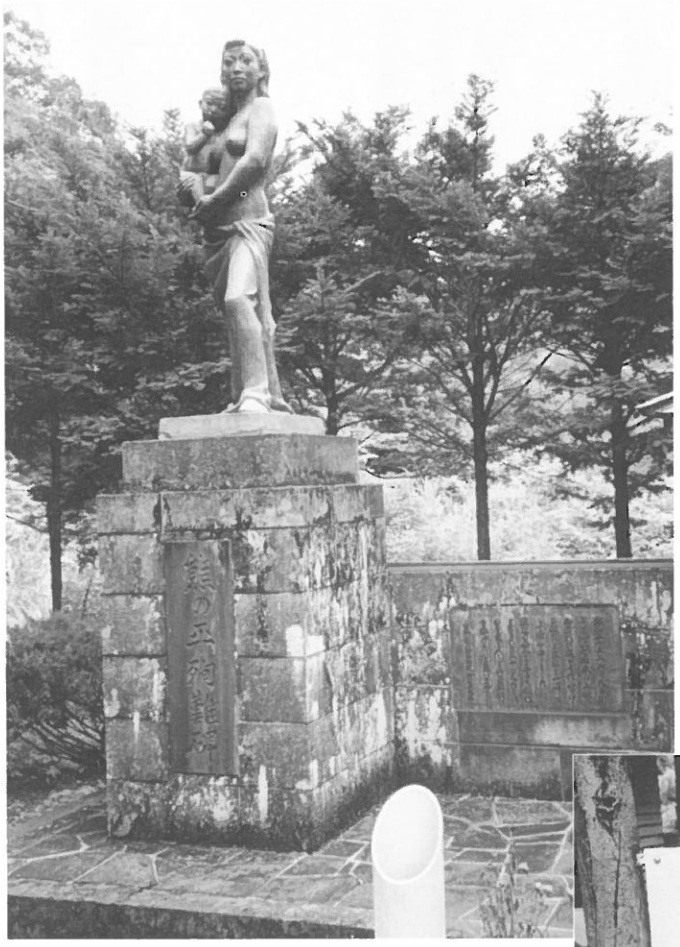
午前六時三十分、最初の崩壊の数倍に及ぶ土砂が、作業員と避難先から帰ったばかりの家族を呑み込んだ。犠牲者は国鉄職員、作業員三十六名と職員の家族十四名、計五十名にもおよんだ。この殉難碑は、乳飲み子を抱いて見つかった母親を始めにした五十名の冥福を祈り建立されたものである。

碑文

昭和二十五年六月九日朝、この静かな碓氷の山渓に山崩れが起きて、作業中の職員と家族を一瞬にして埋め去りました。

鉄道の安全を守って犠牲となられた、五十のみたまにゆき交う人々と共に、哀悼を捧げたいと思います。

日本国有鉄道総裁　加賀山　之雄



この殉難碑は昭和二十五年六月九日早朝突如として山くずれが起こり一瞬にして埋め去られた職員と家族五十のみたまを末長くまつるため、全国の国鉄職員から寄せられた浄財で設立されたものであります。設立当時は線路の反対側にありましたので参拝するためには線路を横断しなければならず危険かつ不便なので昭和四十三年十二月現在地に移設しました。しかしながら現在のみたまは雨雪にさらされ誠に忍びない状態にありますので今回ささやかながら霊堂を建立してみたまをおなぐさめ申し上げることにしたく存であります。

昭和四十四年十一月

高崎鉄道管理局

▶交通案内

◎JR信越線横川駅下車　車で約15分

▶所在地

群馬県碓氷郡松井田町坂本地内

▶水系名及び渓流名

利根川水系烏川右支碓氷川右小支中尾川

▶問い合わせ先

建設省利根川水系砂防工事事務所 調査課　電話0279-22-4179

63 群馬県

吾妻川水害殉難者供養塔

◎建立者／羽根尾部落民一同　◎建立年／昭和二十八年九月一日

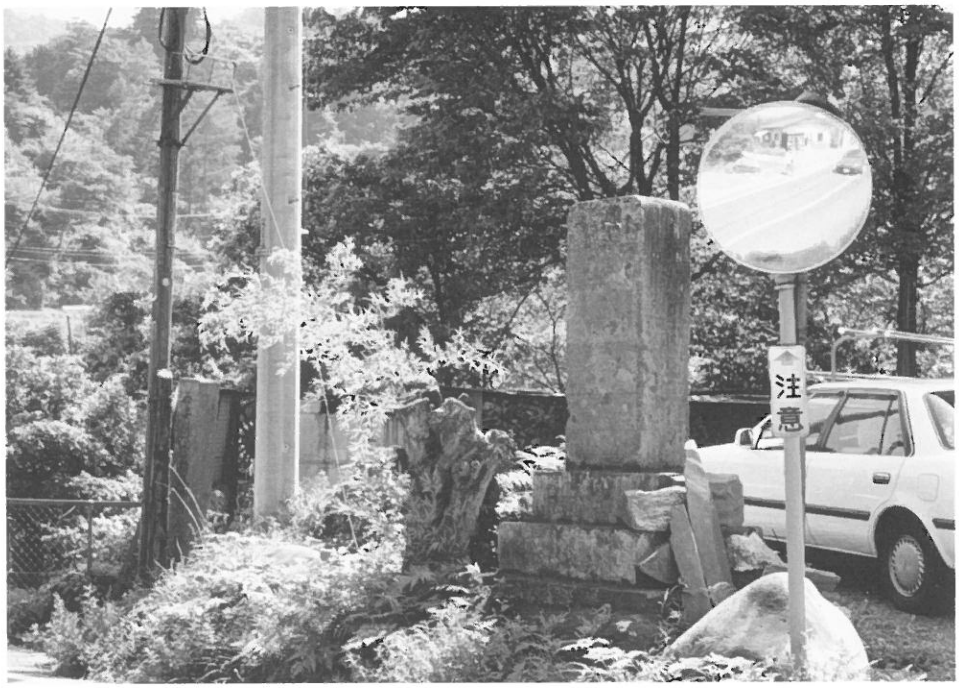
群馬名物の上毛かるたにも「耶馬渓しのぐ吾妻峡」と、その明媚をうたわれる吾妻川も、ひとたび牙を剥けば大きな被害を出してきた。

昭和二十五年（一九五〇年）八月五日、連日の豪雨で増水した吾妻川は、午前八時頃氾濫し、群馬県吾妻郡長野原町の羽根尾部落に襲いかかってきた。荒れ狂う濁流は、一瞬のうちに、浜石橋もろとも十一人の人々を呑み込んでしまったのである。

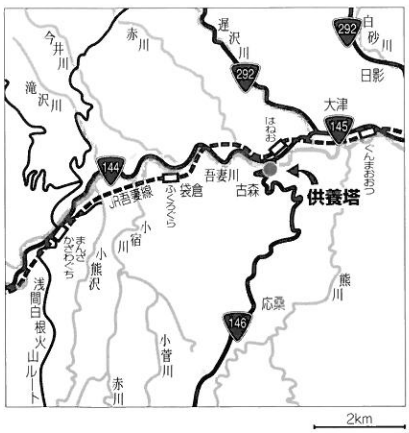
供養塔は、昭和二十八年九月一日に、災害による犠牲者の冥福を祈り、この悲劇を忘れることなく、後世に伝えていくために、羽根尾部落一同が建立したものである。

碑文

昭和二十五年八月五日午前八時連日の豪雨に吾妻川は、氾濫し濁流滔々と荒れ狂い浜岩橋諸共十一名の人命を呑む、悲惨きわまりなく



昭和25年に被災した浜岩橋のたもとに立つ石碑。「浜岩橋寄附連名記念碑　明治34年　秋　9月建立」と記されている。左後方電柱の間に見えるのは「吾妻川水害殉難者供養塔」。



▶交通案内

◎JR吾妻線羽根尾駅下車　徒歩約5分

◎国道145号羽根尾交差点より国道146号500m　車で約1分

▶所在地

群馬県吾妻郡長野原町古森地先

▶水系名及び渓流名

利根川水系吾妻川

▶問い合わせ先

建設省利根川水系砂防工事事務所 調査課　電話0279-22-4179

治水碑

◎建立者／北新田区　◎建立年／昭和三十年十二月

愛知県日進市北新田では、昭和二十七年（一九五二年）七月十一日、活発な梅雨前線によるまれにみる豪雨に見舞われた。午前六時、ついに堤防が各所で決壊し、耕地はあっという間に土砂に埋まってしまった。被害のあまりの甚大さに、村中が一時は暗澹として沈み込むばかりであった。

しかし、ひとたび復興にとりかかると、村人の働きは勢いをとりもどした。住民が一丸となって、資金と労力を進んで提供して、国・県・村の補助を受けながら、復旧に努力した。その結果、すみやかに堤防と耕地が元に戻され、砂防工事を含む治水工事の完成を見たのであった。

この治水碑は、ここに地方自治のありかたの神髄があるとして、記念に建てられたものである。

碑文

表　面

治水碑

治水碑要約

昭和二十七年七月十一日午前六時の豪雨により堤防の各所が崩れ、耕地が埋められてその被害は甚だしく、村は希望を失った。しかし人々は一致協力して復興にあたり、国・県等の補助もあって、治水工事と耕地の復旧に成功した。地方自治事業の見事な結果をここに記念する。

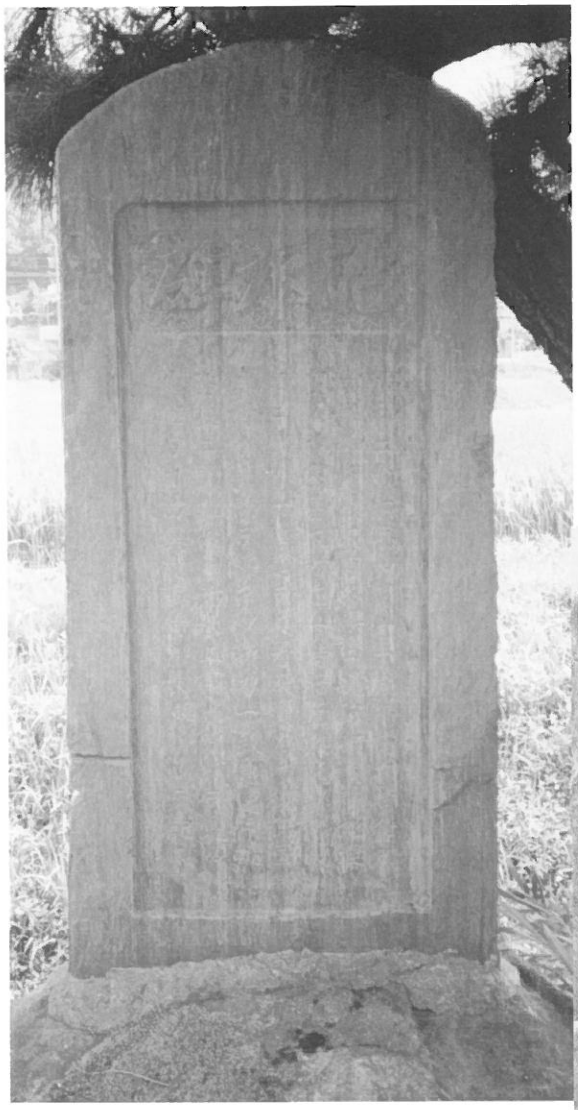
裏　面

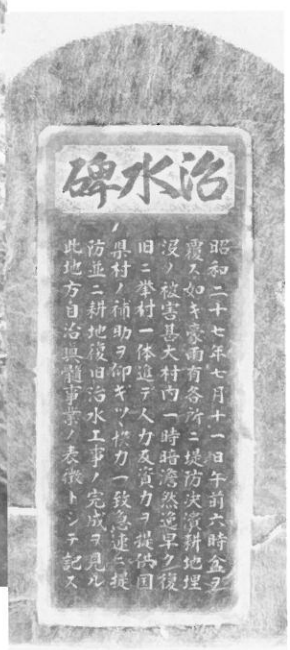
題字　砂防課長米原佐市

昭和三十年十二月建之

北新田区

撰文　稲吉沖一





拓本　表面

拓本　裏面

▶交通案内

◎名古屋鉄道豊田線「こめのき」駅下車名鉄バス乗換　名鉄バス藤が丘行き「北新田」停留所下車　徒歩約5分（200m）

県道岩作諸輪線北進田交差点より200m

▶所在地

愛知県日進市北新町殿ヶ池中地先

▶水系名及び渓流名

天白川水系岩崎川支川北新田川

▶問い合わせ先

愛知県砂防課　電話052-961-2111

65 山形県

黙而雄の碑

◎建立者／最上川水系砂防工事事務所立谷沢川出張所（当時）
◎建立年／昭和二十七年十一月

最上川水系砂防工事事務所は昭和二十六年より瀬場堰堤の工事に着手。当時の工務課長（兼立谷沢川出張所長）は倉上靖氏（故人）であった。しかし工事の進む同二十七年の秋、倉上氏は熊本県への転出を命ぜられる。このことが晩秋、話題となり、石工頭の石川由太郎氏（当時）が思い出を石碑にしたいと同氏に申し出た。続けて石川氏は碑に刻む碑文についても考えてほしいと申し出る。倉上氏はこれに対し「黙而雄」とこたえた。黙々と与えられた仕事を果たす、苦労の多い現場技術員を表現したものである。

その後、瀬場堰堤は同二十八年に竣工。石碑は現在もなお、ダムとともに当時の思いと現場作業員の心意気を伝えている。

碑文

表　面

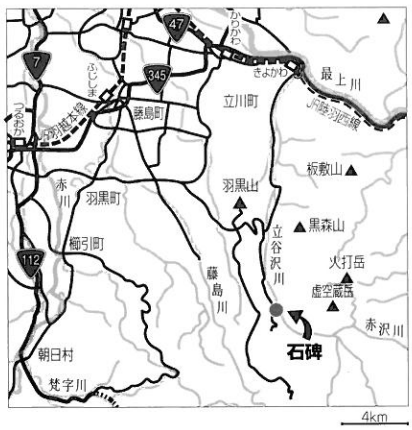
黙而雄　倉上靖書

意味

与えられた仕事を黙々と果たすという意味があり、目立たぬ山間部で苦労の多い現場作業員の心意気を表現したものである。

裏　面

瀬場堰提



▶交通案内

◎立川町営バス立川町役場前発北月山荘下車　徒歩10分

▶所在地

山形県東田川郡立川町字立谷沢地内（瀬湯ダム左岸側）

▶水系名及び渓流名

最上川水系立谷沢川流域立谷沢川

▶問い合わせ先

建設省新庄工事事務所 調査課　電話0233-22-0251

立谷沢川砂防出張所　電話0234-56-2050

66 宮崎県

◎建立者／宮崎県　◎建立年／昭和二十八年

砂防工事記念碑

宮崎県南那珂郡北郷町を流れる広渡川に施工された広河原砂防堰堤工事は、日南土木出張所（現日南土木事務所の前身）における初めての県直営工事であった。この工事は、補助の通常砂防工事で昭和二十六年度に着手し、昭和二十八年三月に竣功した。

広渡川は水量が多く、水替が困難を極め非常な難工事が続いたが、地区（昼野、黒山、平尾）の人達が土木作業員として協力し完成したものである。

この記念碑は、非常な難工事であったことと、初めての県直営工事であったことを記念して設置されたものである。

広河原堰堤

堤　高　5m
堤　長　54m
事業費　10,000千円（昭和26年度～27年度）
工　法　玉石コンクリートで施工
施工者　日南土木出張所（県直営工事）
竣　工　昭和28年3月15日

碑　文

表　面

廣渡川砂防工事記念碑
昭和二十八年三月十五日竣功

▶交通案内
◎JR日南線北郷駅より10km　車で15分　県道都城北郷線沿

▶所在地
宮崎県南那珂郡北郷町大字北河内

▶水系名及び渓流名
広渡川水系広渡川

▶問い合わせ先
宮崎県砂防課　電話0985-26-7187

67 福岡県 ◎建立者／北九州市 ◎建立年／昭和三十五年三月三十日

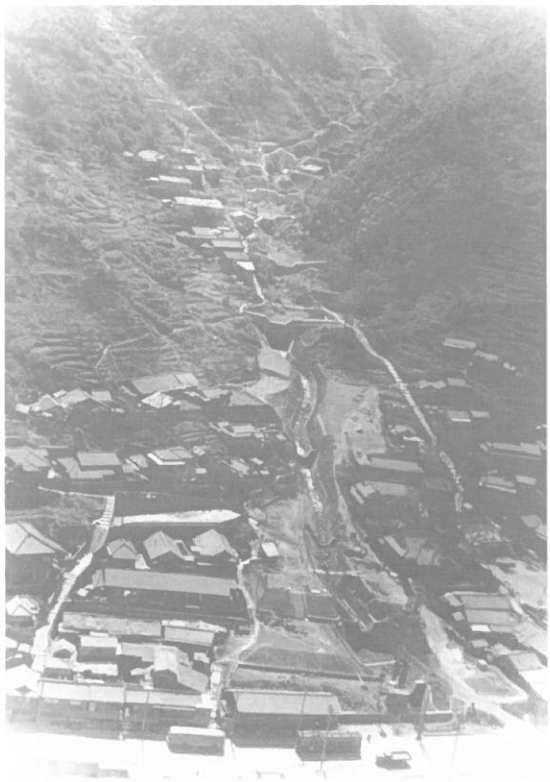
◆北九州豪雨◆

枯れ山水

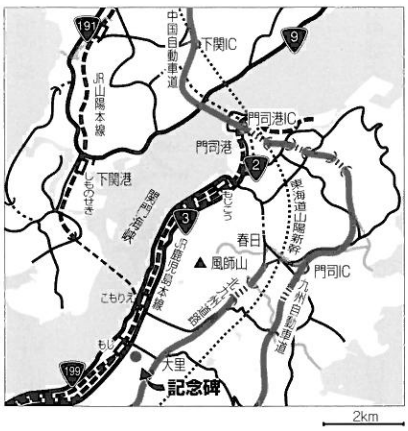
昭和二十八年六月、北九州市を二度にわたって集中豪雨が襲い、大災害が発生した。六月四～七日のジュディ台風と、二十八、二十九日の梅雨前線による豪雨である。とくに門司区での被害が大きく、二十八日午前零時二十分には風師山が各所で山崩れを発生させ、その数は実に六百六十一ヵ所に及び、百四十三名の死者、行方不明者が出た。梅雨による被害としては明治二十二年以来という大規模なものであった。

北九州市では、風師山の山崩れで滑り落ちた石を使って築堤するとともに、自然災害の怖さを再認識し、このような災害が二度とおこらない町づくりをとの思いを込めて、大里出張所新庁舎の庭園に碑を建立したものである。

昭和28年6月　白木崎川　被災状況



白木崎川　砂防工事完成状況



▶交通案内

◎JR九州　鹿児島本線門司港駅から西鉄バス　風師バス停から徒歩5分

▶所在地

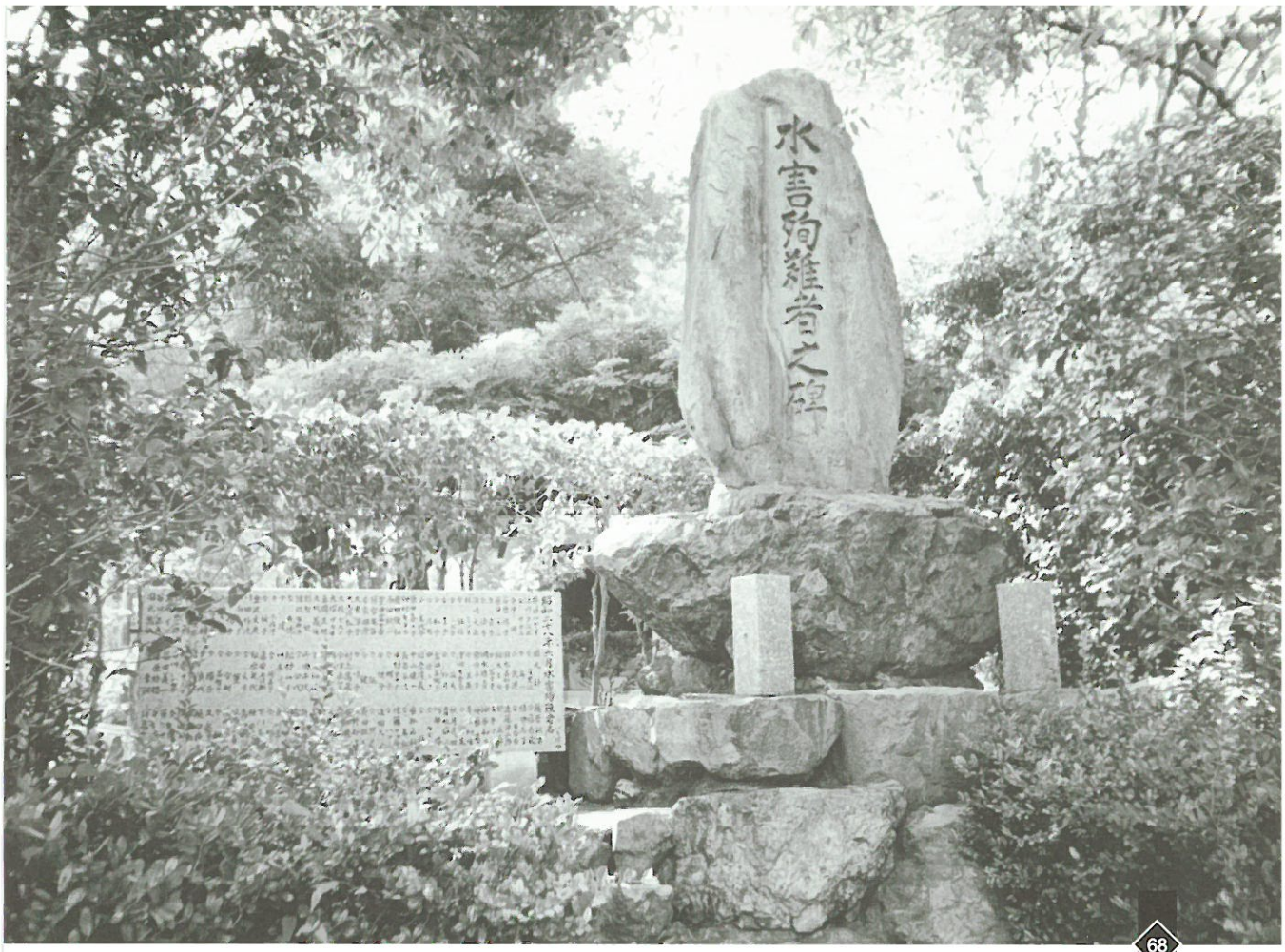
福岡県北九州市門司区風師2丁目10番地　東貴船公園内

▶水系名及び渓流名

白木崎川、貴船川

▶問い合わせ先

福岡県砂防課　電話092-651-1111



68 福岡県

◎建立者／岡信市氏ら遺族・有志一同　◎建立年／昭和三十五年六月二十八日

◆北九州豪雨◆

水害殉難者之碑

昭和二十八年、福岡県北九州市は六月四～七日のジュディ台風、同月二十八、二十九日の梅雨前線による豪雨という二回にわたる集中豪雨によって多大な被害をこうむった。後に北九州豪雨と呼ばれたこの大水害は、死者・行方不明千十三名というもので、梅雨の被害としては明治二十二年以来六十三年ぶりの大規模なものであった。

とくに門司区の被害が大きく、死者・行方不明者は百四十三名を数えた。また、二十八日午前零時二十分頃、風師山が各所で山崩れをおこし、風師二丁目の貴船川沿いの住民は、一瞬のうちに土砂にのみ込まれてしまったのである。この碑は七回忌にあたる昭和三十五年八月、遺族、有志などが犠牲者の霊を供養するために建立したものである。

表　面

水害殉難者之碑

裏　面

昭和廿八年六月廿八日暗雲覆空驟雨
滂沛不和惨害劇甚波及千全市横死者
百四十三倒潰家屋千五百六十有余及
蓋此地未曾有之大惨事也就中白木崎
之一区人家稠密懸崖欹後而此間風師
渓流水勢激滔砂礫迸溢巨岩落下一瞬
之間喪失人命三十七尤極悽惨後次第
復旧今茲七周年之辰有志胥謀営建供
養塔以慰無辜之冥蠢矣

昭和三十五年六月廿八日

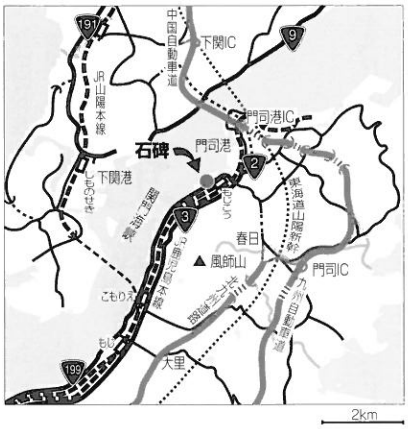
訳文

昭和二十八年六月二十八日、黒い雨雲が空一面を覆って、急に激しい雨が降りだし、それが連日降り続きました。そのため大災害が門司市全体に広がりました。その時不慮の死をとげた方は百四十三名、押しつぶされた家屋は千五百六十余軒に達しました。

この大変痛ましい事件は、振り返ってみましても門司地区では今迄体験したことのない出来事でした。とりわけ白木崎一帯は、人家が多く建ち並び、切り立った崖が背後にそびえています。そのため連日の豪雨で、風師の谷川の水勢ますます激しく、砂といわず小石といわず谷を溢れてほとばしり、巨大な岩も落下して、一瞬の間に三十七人の尊い命が失われました。その痛ましい様子はもうこれ以上のものはないという程でした。

その後次第に復旧しましたが、今年はあの大災害から七周年目に当たります。そこで有志の方々と相談し、この地に供養塔を建立して、その時お亡くなりになったお気の毒な方々の御霊をお慰めすることに致しました。

昭和三十五年六月二十八日



▶交通案内

◎JR九州 鹿児島本線門司港駅から西鉄バス　風師バス停から徒歩5分

▶所在地

福岡県北九州市門司区風師2丁目10番地　東貴船公園内

▶水系名及び渓流名

白木崎川　貴船川

▶問い合わせ先

福岡県砂防課　電話092-651-1111

69

和歌山県

◎建立者／花園村村長　斉藤福松
◎建立年／昭和二十九年七月十八日

大水害の地蔵尊

昭和二十八年七月十八日、和歌山県伊都郡花園村をはじめとする有田川水系に梅雨前線豪雨による大災害が発生した。

この災害は、死者六百十五名、行方不明四百三十一名、家屋の全壊流出八千六百八十二戸、被災者総数二十五万人の大災害となった。

ここ花園村北寺地区でも、山津波（土石流）により集落は全滅し、八十六名の尊い人命が奪われた。

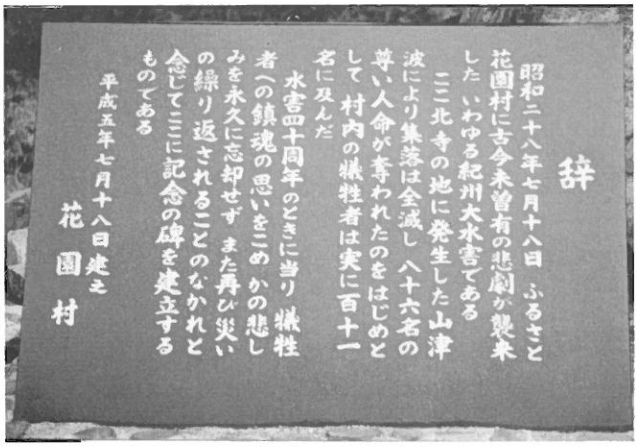
当時の花園村斉藤福松村長は、その霊を慰めるために翌二十九年七月に北寺観音堂の左隣に「大水害の地蔵尊」を建立した。

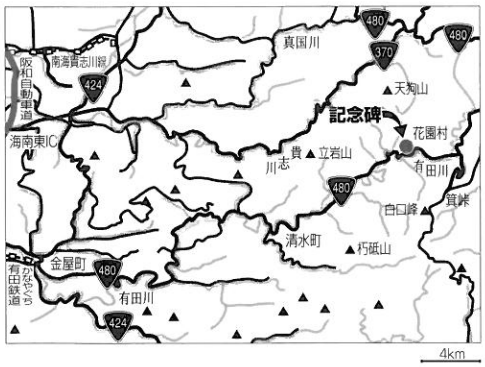
また、この北寺観音堂から百メートル離れた場所には犠牲者への鎮魂とこの大水害を忘れることのないよう「紀州大水害記念碑」が平成五年七月十八日に部矢敏三村長によって建てられた。

為　水害遭難者慰霊供養
　地蔵菩薩尊像建立由来
　昭和廿八年七月十八日乾挿惨憺たり既にして霖雨数旬に亘り屬々猛雨暴風を生じ為に此処に至って災禍忽ち泰る山壑河川崩壊氾濫いたましいかな殃死者百十一人流埋没家屋百三十戸に及べり
　嗚乎供呉なるを期すべしと蚤もかの逝者の怨啾を如何せん仍って滋に地蔵菩薩を造顕し衷誠を竭してかの諸霊を慰め功徳を廻向して佛果菩提を弔う希はくは菩薩本誓悲願に従い遭難諸霊を永く安養浄利に養護し給へ
　昭和廿九年七月十八日
建立者発起人　花園村長　斉藤福松
作文者　高野山霊宝館長　堀田真快

紀州大水害記念碑
　花園村長　部矢敏三書

辞
　昭和二十八年七月十八日　ふるさと花園村に古今未曾有の悲劇が襲来した　いわゆる紀州大水害である
　ここ北寺の地に発生した山津波により集落は全滅し八十六名の尊い人命が奪われたのをはじめとして　村内の犠牲者は実に百十一名に及んだ
　水害四十周年のときに当り　犠牲者への鎮魂の思いをこめ　かの悲しみを永久に忘却せずまた再び災いの繰り返されることのなかれと念じてここに記念の碑を建立するものである
平成五年七月十八日建之
花園村





▶交通案内
◎JRきのくに線「ふじなみ」駅下車
　有田鉄道乗車20分「かなやぐち」駅下車
　「はなぞのむら」行きバス乗車1時間
◎近畿自動車道阪和線　海南湯浅道路　県道吉備金屋線経由
　国道480号利用　大阪より約3時間
▶所在地
　和歌山県伊都郡花園村北寺
▶水系名及び渓流名
　有田川水系有田川
▶問い合わせ先
　和歌山県砂防課　電話0734-41-3171

70

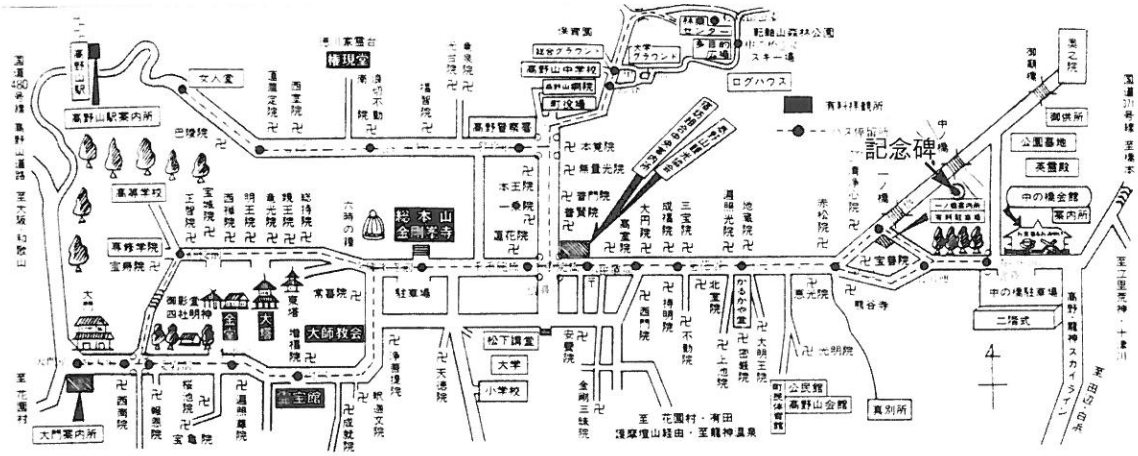
和歌山県

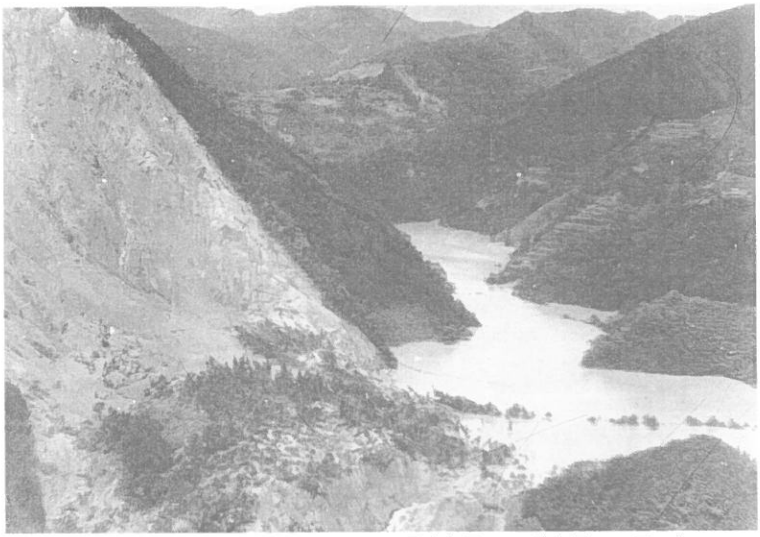
◎建立者／高野山花園村出身者
◎建立年／昭和五十三年七月十八日

花園村水難犠牲者之碑

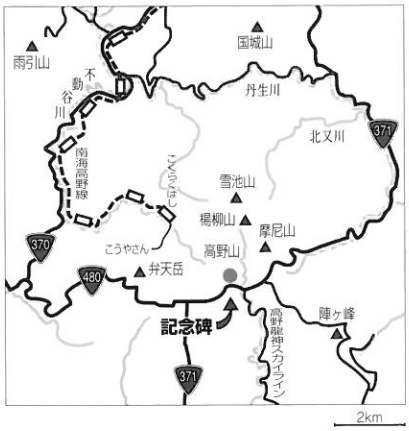
昭和二十八年七月十八日、和歌山県伊都郡花園村をはじめとする有田川水系に発生した梅雨前線豪雨による災害は、被災者総数二十五万人の大災害となった。

この石碑は、昭和二十八年災害による犠牲者の霊を慰めるため、花園村出身者によって、高野山の境内に建立されたものであり、毎年七月十八日供養を行っている。





花園村金剛寺天然ダム（山腹崩壊土量520万m³、最大水深60m、貯水量3,000万m³）
昭和28年7月18日　有田川上流部　同年9月25日に欠壊



▶交通案内

◎南海高野線「ごくらくばし」経由ケーブル電車「こうやさん」駅下車
バス乗車20分「なかのはし」停留所下車　徒歩15分

◎山麓九度山町より高野山道路　国道370号
480号を経て大阪より約3時間
紀南からは高野龍神スカイラインを利用

▶所在地
和歌山県伊都郡高野町高野山

▶水系名及び渓流名
有田川水系玉川

▶問い合わせ先
和歌山県砂防課　電話0734-41-3171

71 長野県

蛇ぬけの碑

◎建立者／じゃぬけの碑 設立委員会　◎建立年／昭和三十五年八月二十一日

昭和二十八年七月二十日、長野県木曽郡南木曽町の伊勢小屋沢を「じゃぬけ」（土石流）が襲い、死者三名という惨事をひき起した。そこで、犠牲となった三名の霊を慰めるとともに、この災害によって得られた幾多の教訓を後世に伝え、再びこのような被害を受けないことを念願して、昭和三十五年八月にじゃぬけの碑設立委員会によって石碑が建立された。

碑は東京芸術大学助教授の笹村草家人先生の作になるもので、設立には多くの人々が協力した。なお、像の礎石には、「白い雨が降るとぬける」「雨に風が加わると危い」「蛇ぬけの前にはきな臭い匂いがする」など、どんなときにじゃぬけが起るのかという教えである里諺を刻み、後世への戒めとした。

碑文

蛇ぬけの碑
里　諺

白い雨が降るとぬける
尾先　谷口　宮の前
雨に風が加わると危い
長雨後谷の水が急に
止まったらぬける
蛇ぬけの水は黒い
蛇ぬけの前にはきな臭
い匂いがする

美明書

伊勢小屋沢　対策工事の現況

▶交通案内
◎JR中央西線南木曽駅下車　徒歩15分
▶所在地
長野県木曽郡南木曽町天白地先
▶水系名及び渓流名
木曽川水系伊勢小屋沢
▶問い合わせ先
長野県木曽建設事務所　電話0264-24-2211

72 京都府

南山城水害記念碑

◎建立者／南山城村　◎建立年／昭和三十一年八月十五日

昭和二十八年八月十四日の日没から十五日未明にかけて集中豪雨が京都府南部南山城地方を襲った。豪雨は山津波を発生させ、土石流は家屋や田畑に襲いかかり、一瞬にして大災害をもたらすところとなった。この大水害によって、南山城一帯は犠牲者三百三十六名、流失・全壊家屋七百五十二戸を数えるとともに、田畑は砂礫の河原と化し、道路は寸断されるなど、未曾有の被害を受けたのである。

その後、全村が一丸となって復旧に邁進し、三年にしてその半ばを達した。そこで南山城村では、災害の記念日である昭和三十一年八月十五日に災禍の惨状を記して後世に残すため、この石碑を建立したものである。

碑文

表面

復興　災害記念塔

裏面

南山城水害記念碑

昭和二十八年八月十四日日没より降り始めし雨は夜と共に益々勢を増し雷鳴天地を揺かし雨量刻々に増大し夜半に至りては稀有の大豪雨となり遂に翌十五日未明山津波と激流は家屋を埋没流出せしめ一瞬にして幾多の尊き人命を奪い而も祖先傳来の田畑は砂礫の河原と化し道路は寸断され交通通信は全く杜絶し惨状人をして目を蔽はしむ實に本村未曾有の大災害たり爲に村民の生活は根底より覆され永年の平和郷も荒廃その極に達せり爾来三星霜能くその廃墟より立上がり營々苦心の結果復旧の功漸くその半ばに達せる今日茲に記念の碑を建立し災禍の惨状を記して後世に遺さんとす

昭和三十一年八月十五日建之

▶交通案内

◎JR関西本線大河原駅下車　徒歩15分

◎国道163号山城谷橋（山城谷川）付近交差点から北へ200m

▶所在地

京都府相楽郡南山城村北大河原（大河原小学校横）

▶水系名及び渓流名

淀川水系木津川支渓

▶問い合わせ先

京都府砂防課　電話075-414-5314

73 三重県

◎建立者／島ヶ原村　◎建立年／昭和四十四年八月十五日

山津波災害記念碑

昭和二十八年八月十四日夜半から十五日未明にかけて、三重県伊賀・北勢地方は前線性の大豪雨に見舞われた。とくに伊賀地方は、激しい雷鳴をともなう大雨となり、山崩れや土石流が各所で発生。土砂が濁流のごとく奔流し、一瞬にして多数の人命を奪い、その惨状は目をおおうばかりであった。土石流は伊賀地方の島ヶ原村、上野市に集中し、島ヶ原村七渓流、上野市十一渓流の計十八渓流を数え、死者・行方不明者は二十九名に達した。

この災害によって十五名の犠牲者と流失家屋二十二戸、全半壊家屋二十三戸という被害を受けた島ヶ原村では、この恐ろしい災害の状況を永久に伝えるため、昭和四十四年八月に島ヶ原村山津波災害記念碑を建立した。

表　面

山津波災害記念碑

昭和二十八年八月十四日夕刻からの降雨は夜半に至り沛然たる大豪雨となり激しき雷鳴と凄絶なる稲妻は間断なく大地を震わせ遂に十五日未明俄然地鳴を伴い北部山渓一帯において山津波を起し濁流は無数の巨石と立木を交えて奔騰し瞬時にして多くの家屋を押し流し尊い人命を奪い去りぬ豊沃なる田畑は砂礫の河原と化し道路は寸断され交通通信は全く杜絶するなど大自然の暴威の下に惨憺たる荒廃の地に変貌し村民斉しく呆然たるものありしが克く廃墟の中より立ち上り国県の力強き援助の下に営々辛苦の末災害前にも優り整備せられたる平和郷の再建成る

茲に後世災害の再び起らざるよう不断の対策を怠るなきを念じ災禍の恐るべきを末永く伝えんとしてこの碑を建つ

昭和四十四年八月十五日　島ヶ原村建之

裏　面

死者行方不明	十五人	田畑流失埋没	百四十町歩
負傷者	八十六人	道路決壊	百五十ヶ所
流出家屋	二十二戸	橋梁流失	三十九ヶ所
全壊家屋	十六戸	堤防決壊	十ヶ所
半壊家屋	七戸	鉄道不通	三ヶ所
		山林崩壊	三百八十八ヶ所

災害時

現況

▶交通案内

◎JR関西本線島ヶ原駅下車　三重交通中矢行き正月堂バス停下車

◎国道25号（名阪国道）大内インターチェンジより15km、車で約20分

▶所在地

三重県阿山郡島ヶ原村中村地先

▶水系名及び渓流名

淀川水系大谷川他

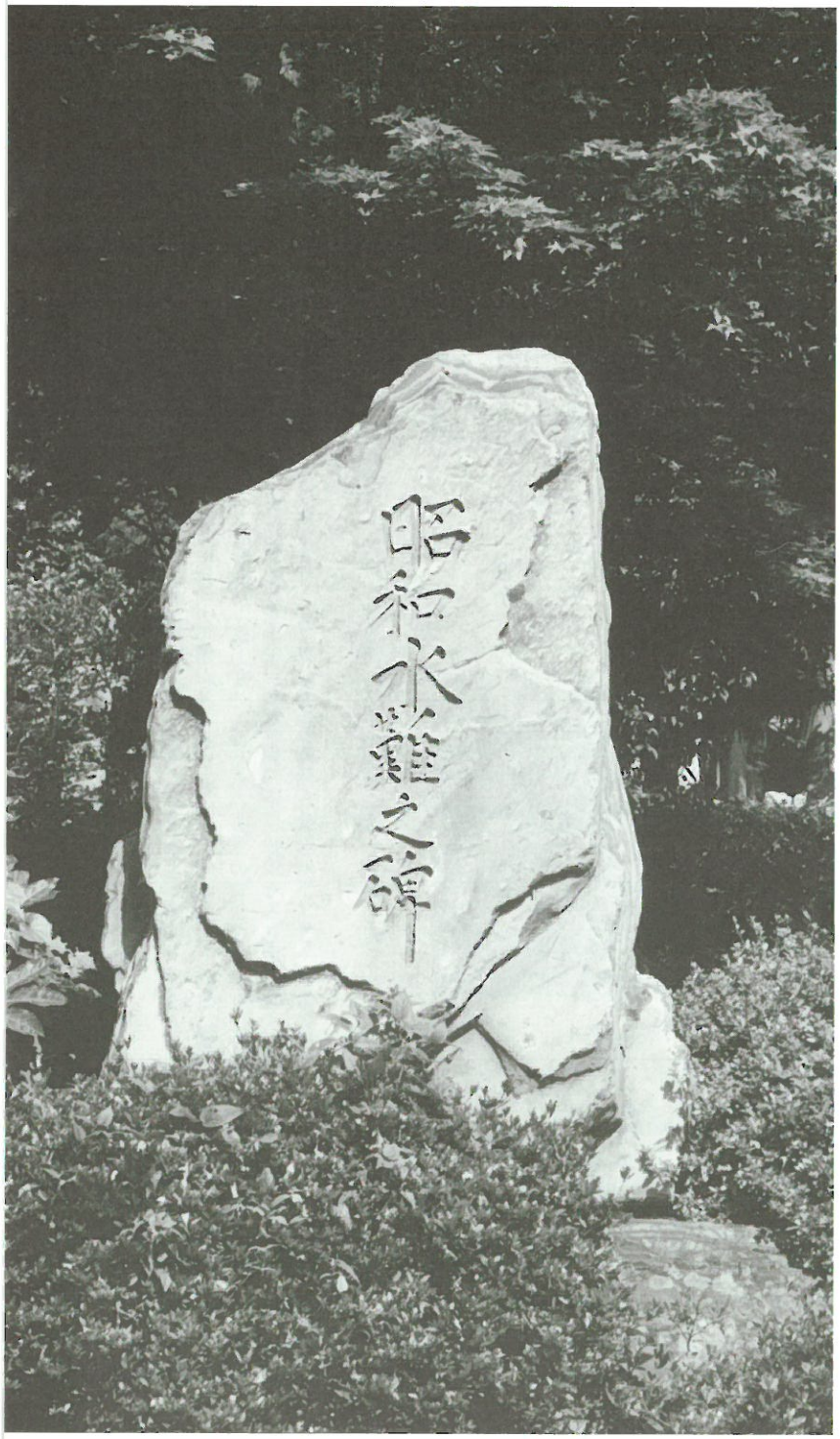
▶問い合わせ先

三重県砂防課　電話059-224-2698

74 滋賀県

昭和水難之碑

◎建立者／多羅尾自治会　◎建立年／昭和三十二年八月十五日



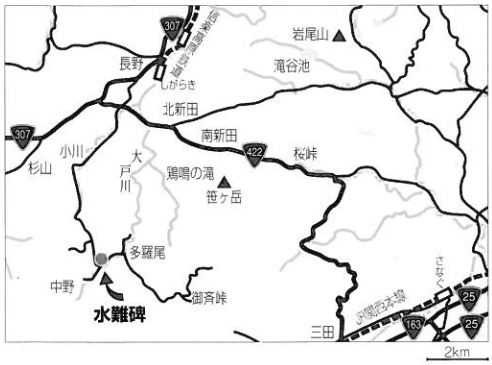
昭和二十八年八月十五日未明、滋賀県信楽町の多羅尾地区を豪雨が襲った。多羅尾地区は急峻な地形であるところから各所で山津波が発生。大規模な土石流となって貴生川から多羅尾に至る一帯は土砂で埋まってしまった。雨量については三〇〇ミリとも四〇〇ミリともいわれるが、彦根測候所の雨量計は三〇〇ミリまでしかなく、正確な雨量はわかっていない。

この災害での多羅尾地区の被害は、死者四十四名、重軽傷者約百三十名、家屋の全半壊七十二戸などという甚大なもので、田畑や道路はほとんど全滅であった。災害から五年が経った昭和三十二年八月、地元自治会が復興を記念してこの石碑を建立した。

碑文

表面
昭和水難之碑
裏面
碑文
昭和二十八年八月十五日拂暁多羅尾地区を襲った豪雨は激烈な雷鳴を伴い、数時にして四百粍を超す雨量をもたらし、加うるに山地は崩壊して山津波は各所に起こり終に死者四十四名、重軽傷百三十名、家屋の全壊四十戸、半壊損傷無数、田畑、道路殆ど壊滅、その惨状筆舌に尽くし難し、今や復古なるに際し、当時を偲び記念の碑を建てて後昆に伝える

題字　碑表　佐野長一朗
昭和三十二年八月十五日建立
多羅尾自治会



▶交通案内
◎信楽高原鉄道信楽駅下車　JRバス多羅尾行多羅尾バス停下車
徒歩5分
◎国道422号　江田交差点より7km　車で10分
▶所在地
滋賀県甲賀郡信楽町多羅尾
▶水系名及び渓流名
淀川水系大戸川
▶問い合わせ先
滋賀県砂防課　電話0775-28-4191

75 山形県

本道寺堰堤の碑

◎建立者／最上川水系砂防工事事務所・寒河江川出張所（当時）
◎建立年／昭和二十九年

山形県寒河江川流域の西川町では、洪水災害が多く、明治期には七件を数え、川沿いの耕地の被害は甚大であった。また昭和九年六月には豪雨により綱場橋の半分が流出。同十五年七月には大井沢豪雨により本道寺尋常小学校校舎流出など、河川氾濫による被害を見ている。

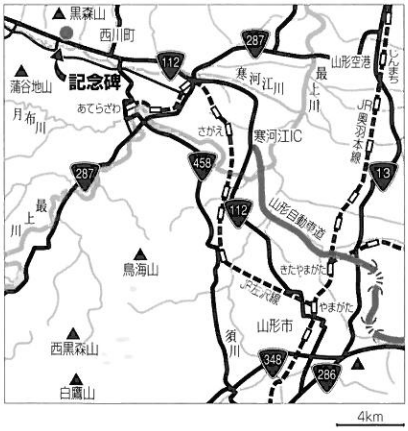
本道寺堰堤はこのような状況のなか、最上川水系砂防工事事務所、寒河江川出張所により、昭和二十六年五月に直轄砂防区域に編入後最初の堰堤として着工し、同三十年三月に完成した。その後、寒河江川本川に同五十四年、多目的ダムとして寒河江ダムが構築されるに至り、本道寺堰堤は撤去された。石碑「本道寺堰堤」は本道寺堰堤の往時の雄姿を偲ぶため、寒河江川砂防出張所構内に移設されたものである。

碑文

着工　昭和二十六年五月
竣功　昭和二十九年十月

本道寺堰堤

建設省



▶交通案内
◎JR奥羽本線山形駅下車　車で約45分
◎JR左沢駅下車　車で約15分

▶所在地
山形県西村山郡西川町（寒河江川砂防出張所構内）

▶水系名及び渓流名
最上川水系寒河江川流域

▶問い合わせ先
建設省新庄工事事務所 調査課　電話0233-22-0251
寒河江川砂防出張所　電話0237-74-2366

76 新潟県

◎建立者／金井村長　北見惟吉他一同　◎建立年／昭和三十年七月

治水砂防記念碑

新潟県佐渡ヶ島の新保川は急流のため洪水が多く、堤防の決壊により周辺地域では昔より莫大な被害をこうむってきた。逆に渇水の時季には灌漑用水が不足し、同地域の農民は苦しみ続けてきた。

この対策として砂防堰堤の施工を行うこととなり、昭和二十二年四月、同事業を着工するに至った。

砂防ダムは高さ二十五メートル、頂長一一七メートル、体積二万三〇〇〇立方メートルで、総工費一億円を投じ昭和三十年三月に竣工した。

石碑は昭和三十年七月、同ダムの竣工を記念し、村長、地元の人々が関係者諸氏の功績を讃え、建立したものである。

表　面

治水砂防記念碑

裏　面

由来　新保川は急流にして洪水は一據に流下し堤防の欠壊溢水により　国仲の沃野に冠水し年々莫大の被害を反覆し　猶渇水時には特に甚しく灌漑用水に不足を来し　古来水時計による分水を行うも旱魃を蒙り千渉地五百町歩の農民は塗炭の苦しみに喘ぎ　これが対策は多年の懸案なりしが偶々昭和二十一年当時の相川土木出張所長安東稔氏により砂防堰堤の施行による他なしとし　地元民の結束により直ちに申請せり　同年十月全国治水協会より徳川家正　古島一雄　河井弥八　赤木正雄等の諸氏及び同年十二月内務省砂防課長　伊藤剛氏の来島調により　翌二十二年四月着工　高さ二五米　頂長一一七米　体積二萬三千立米の堰堤を総工費一億円を以て昭和三十年三月竣工せり　其の間特に本村安田吉次氏四男政夫君が殉難し尊き人柱となれるは痛惜事なり　次に本工事に盡力されし各位は県土木部長五十嵐真作　元砂防課長田中精一　同吉江定雄　同市川嘉瑞　相川土木出張所長玉井健吉　新保川砂防工事々務所長重野仔　同皆川健治　同小松多一　地元村長後藤善次　同児玉喜平治　助役本間禎吉　本工事期成同盟理事児玉太十郎　安田源平　仲川与右ェ門　児玉初蔵　田中治兵衛　小菅房市　茅原惣次　本間長三　伊藤紋右ェ門の諸氏にて其の功に待つところ多し　茲に竣工を記念し現村長北見権吉は地元民と相図りこの碑を建て関係者諸氏の功績を讃えん

昭和三十年　七月盛夏　金井村　藤村中堂書

▶交通案内

◎新潟交通バス両津駅より相川行き乗車　運動公園バス停下車

国道交差点より5.8km　徒歩で1時間15分

▶所在地

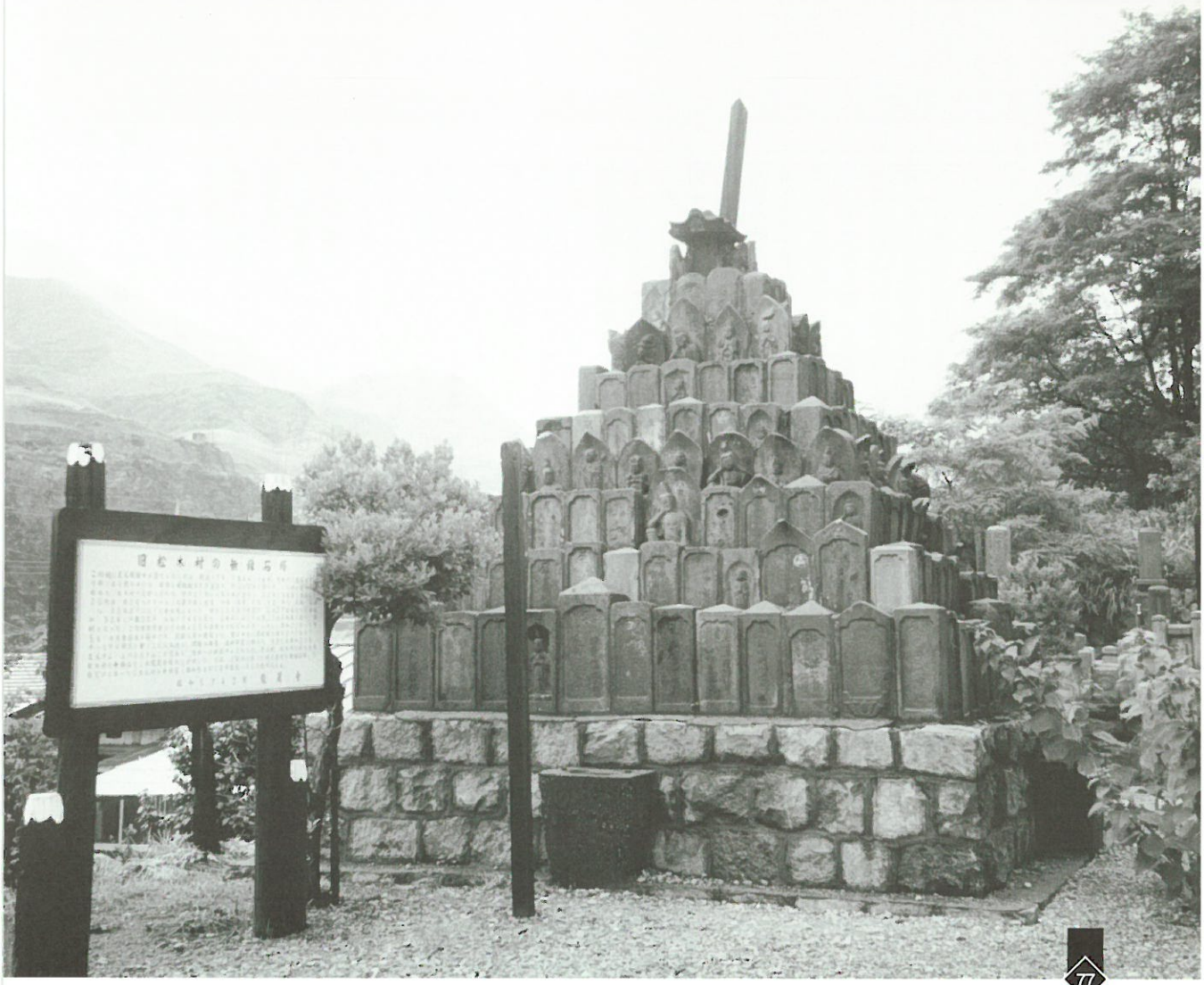
新潟県佐渡郡金井町大字新保

▶水系名及び渓流名

国府川水系新保川

▶問い合わせ先

新潟県砂防課　電話025-285-5511



77 栃木県

旧松木村無縁石塔

◎建立者／不明　◎建立年／昭和三十一年合祀

江戸時代、松木村は足尾十四カ村のなかでも最大の村であった。この地に明治十七年（一八八四年）足尾精錬所ができて以来、有毒な亜硫酸ガスの発生によって被害を受けるようになり、ついに明治三十四年、廃村に追い込まれた。煙害は明治二十一年に桑の木を全滅させて翌年に養蚕廃止、二十町歩で収穫されてきた大麦や小麦他の農作物も三十三年までに無収穫となった。明治二十五年にはまだ四十戸二百七十人を数えていた村人の生きるすべを奪ったのである。

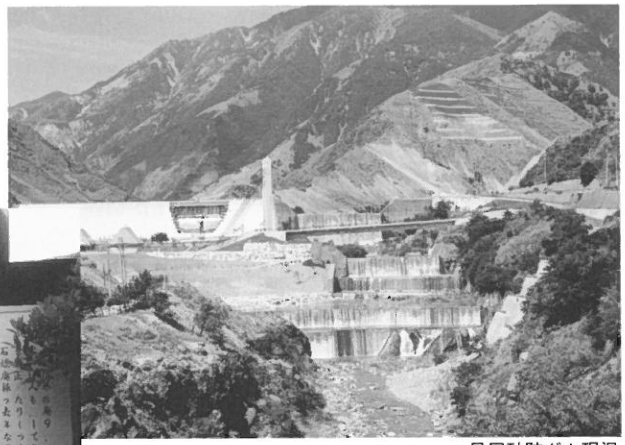
以後訪れる人もなく荒廃するままであったが、昭和三十一年（一九五六年）、足尾砂防ダムの完成により埋没するため、旧松木村の無縁仏を龍蔵寺に合祀したものである。

この地に足尾製錬所が建てられたのは、明治17年(1884)である。

製錬所で鉱石を溶かす時に出る煙の中には、有害な亜硫酸ガスが含まれ、付近の草木を枯らす、いわゆる煙害が出始めた。松木村の記録によれば、明治21年には桑の木が全滅し、22年には養蚕を廃止した。20町歩(約20ヘクタール)の農作物(大麦、小麦、大豆、小豆、ヒエ、キビ、大根、人参)は、33年までに次々と無収穫となった。明治25年まで40戸、人口270名だったものが、33年に戸数30戸、人口174名に減り、34年には一戸を残して全員松木を去り、廃村となった。

この煙害問題は、その後も50年間解決されなかった。しかし昭和31年(1956)自溶製錬法が採用され、硫酸工場が建設され、煙の中から濃硫酸を採るようになって、やっとその根元を断つことに成功し、問題は砂防造林事業に移った。たまたま昭和31年、足尾ダム(三川合流ダム)が完成し、日本一の砂防ダムとなった。その折り、松木川に添った旧松木村の無縁仏をこの龍蔵寺境内に合祀した。なお、久蔵川に添った旧久蔵村の無縁石塔、仁田元川に添った仁田元村の無縁墓(昭和56年12月建設)もこの境内にある。

昭和57年3月　龍蔵寺



足尾砂防ダム現況

▶交通案内

◎JR両毛線より渡良瀬渓谷鉄道間藤駅下車　町内バス赤倉行き赤倉バス停下車徒歩5分

◎国道122号線田元交差点を松木渓谷方面へ約2.5km　車で5分

▶所在地

栃木県上都賀郡足尾町赤倉地先　龍蔵寺

▶水系名及び渓流名

利根川水系渡良瀬川

▶問い合わせ先

建設省渡良瀬川工事事務所　砂防調査課　電話0284-73-5559

78 長崎県

◎建立者／釜部落一同　◎建立年／昭和四十二年七月二十五日

◆諫早水害◆

水難者慰霊碑

昭和三十二年七月二十五日から二十六日にかけて、梅雨前線の停滞によって長崎県諫早地方に豪雨が降り続いた。この日の雨は総雨量が一千ミリを越し、「諫早水害」として長崎県の災害史に名を残す大災害となったのである。森山村においてもその惨状は目を蔽うばかりで、釜地区では背後の山頂付近から山崩れが発生。これによって四十名の尊い生命が失われるとともに、家屋の流失・倒壊などの被害に見舞われた。

釜地区では水害十周年を迎えた昭和四十二年七月、今後再びこのような災害に遭うことがないように念じつつ、水難者の霊を慰めるためにその芳名を刻み、慰霊碑を建立したものである。

碑文

表　面

水難者慰霊碑

裏　面

水害記

昭和三十二年七月二十五日の大水害は上空に停滞した梅雨前線次第に発達して大雨型となり夜に入るやその雨量実に千ミリを越ゆる超記録的異常性集中大豪雨によって諫早北高一帯全域に起った史上空前の大災害であった。

当地釜部落の被害は最も激しく、同夜十時二十分背後山頂下方附近より突怒として起った超大型の山崩れにより、その災害は部落全域に及び家屋の流失倒壊或は埋没により四十人の尊い人命が失なわれ悲痛極まりなき惨状を呈した。

遺体発掘は警察機動隊、自衛隊、消防団、部落民村民及び県下五十余の応援隊の八日間に亘る協同作業により、全御遺体を無事収容した。

茲に水害十周年を迎え、年来宿望の慰霊碑を建立し、今は亡き水難者の芳名を刻して永く慰霊追悼の誠を捧げ奉る。

森山村教育長　中山憲雄謹書

▶交通案内

◎JR諫早駅より島原鉄道で釜の鼻駅下車　徒歩約5分

◎国道57号の釜の鼻バス停より徒歩約3分

▶所在地

長崎県北高来郡森山町大字田尻名字甑輪

▶水系名及び渓流名

準用河川西昭和開川水系の無名沢

▶問い合わせ先

長崎県砂防課　電話0958-20-4788

79 静岡県

◎建立者／静岡県田方郡修善寺町　◎建立年／昭和四十年十一月

◆狩野川台風災害◆

狩野川台風復興記念碑

昭和三十三年九月二十六日、台風二十二号（狩野川台風）は伊豆半島の南端をかすめ、神奈川県江ノ島付近に上陸。東京を通り、福島県南部を経て金華山沖へ抜けた。典型的な雨台風で、関東地方を中心に各地で大きな被害が出た。全国の死者、行方不明千二百六十九名、家屋全半壊三千四百六十四棟、同流失八百二十九棟などが記録されており、がけ崩れ災害が多かったのが特筆される。

とくに豪雨の被害が甚大だったのは狩野川流域で、修善寺町も土石流、がけ崩れ、洪水氾濫によって死者四百六十九名、負傷者二百十七名、家屋流失三百七十六戸という未曾有の被害をこうむった。以来、国、県の支援、地元民の努力によって復興をとげ、昭和四十年十一月、復興を記念して碑が建立された。

碑文

表面

狩野川台風復興記念碑

静岡県知事　斎藤寿夫書

裏面

昭和三十三年九月二十六日の狩野川台風は、わが修善寺町に驚天動地未曾有の惨害をもたらした。一夜にして四百六十九名の尊い人命を奪い、二百十七名に重軽傷を負わせ、二百五十六戸の住家を流し去り、三百七十六戸に全半壊浸水の被害を与えたほか、本町の穀倉美田六十八ヘクタールを廃墟と化したのである。

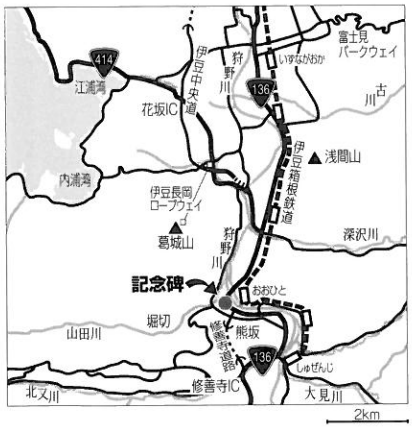
以来七年有余、当時のいたましい面影をうかがい知る風物は今や全くなく、災害前にまさる復興をとげた。これはひとえに、国県はじめ各方面の力強い温い支援と被災住民の旺盛な復興への努力の賜であって感慨まことに量り知れない。

ここに、復興事業の完成を期し、狩野川台風復興記念碑を建立して殉難者の霊を慰め、永遠に災害の再発防止を希うものである。

昭和四十年十一月

大仁付近の痕跡状況

狩野川台風による被災状況　大仁橋の落橋及びその付近状況を上空から望む（毎日新聞社提供）



▶交通案内

◎JR三島駅より伊豆箱根鉄道で30分　大仁駅下車

徒歩15分（狩野川をはさんで向こう岸）

▶所在地

静岡県田方郡修善寺町熊坂地先（狩野川公園内）

▶水系名及び渓流名

狩野川

▶問い合わせ先

建設省沼津工事事務所　工務第二課　電話0559-34-2006

80 静岡県

◎建立者／静岡県田方郡修善寺町熊坂土地改良区
◎建立年／昭和五十三年九月二十六日

◆狩野川台風災害◆

狩野川台風殉難者慰霊碑

昭和三十三年（一九五八年）九月二十六日に伊豆半島を縦断した台風（狩野川台風）は、天城の降雨量七百五十ミリ、最大時間雨量百ミリを越え、伊豆のいたるところで崩壊を引き起こした。この土砂や樹木が川を堰止めては、それを破り一気に流れていった。この災害により修善寺橋において狩野川の本流は堰止められて、上流地帯は濁り水による湖の様相を呈し、浮遊物が天城方向に逆流していった。午後九時五十分頃ついに修善寺橋が陥没、大泥流になって下流の熊坂地区を襲った。

百戸の村は一瞬にして怒濤に呑み込まれ、二百九十一名の犠牲者を出す大惨事となった。この災害から二十年目を迎えた年に、災害を記録し、村の犠牲者とともに台風による犠牲者九百四十一名の霊を弔う碑が建立された。

表面

狩野川台風殉難者慰霊碑

静岡県知事　竹山祐太郎

裏面

昭和三十三年九月二十六日台風二十二号伊豆半島を急襲縦断した。天城の降雨量七百五十ミリ、最大時間雨量百十ミリを越え全山至る処崩壊して三千余箇所、崩壊の土砂木石は豪雨を堰止め豪雨又堰を破ることその何百回なるを知らず。ついに修善寺橋に於いて狩野川の本流を堰止めたり。遂に上流地帯は、一大濁湖と化し浮遊物は皆天城を指して逆流するに至る。堅を誇る修善寺橋もその暴圧に堪ゆること得ず突然陥没した。時午後九時五十分頃か。橋壁を突破した濁湖は一大怒濤と化し、まっしぐらに下流熊坂を直撃する。

かかる上流の事態を夢想だにしなかった熊坂の夜は一瞬にして阿鼻叫喚の修羅地獄無気味な地鳴りと荒れ狂う波の底に沈んだ。

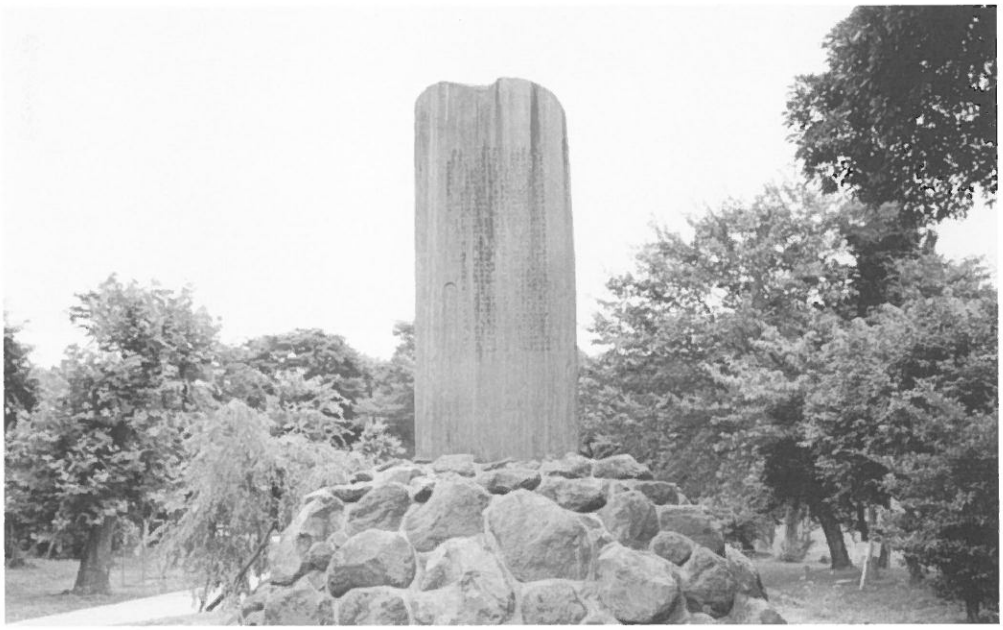
やがて、水退き満月照らしださるる魔の爪跡、百戸の村にして夫婦もろ共死せし四十五組、寡夫となりし十六人、寡婦五人、孤児二十二人を出し、犠牲者の数は二百九十一人にのぼり、家屋の流出七十六戸百九十三棟耕作地の荒廃三十六ヘクタールに及ぶ。

かくの如き惨害は村史口碑にも伝承なく実に前古未曾有にして、国この二十二号を名づけて狩野川台風となす。

時移り人交って災害二十周年を迎う。茲に熊坂土地改良区は碑を建て惨状を録すと共に台風全殉難者九百四十一柱の霊を弔う。

昭和五十三年九月二十六日

熊坂土地改良区之建



▶交通案内

◎JR三島駅より伊豆箱根鉄道で30分　大仁駅下車

徒歩15分（狩野川をはさんで向こう岸）

▶所在地

静岡県田方郡修善寺町熊坂地先（狩野川公園内）

▶水系名及び渓流名

狩野川

▶問い合わせ先

建設省沼津工事事務所 工務第二課　電話0559-34-2006

81 大分県

宮崎孝介君の殉職の碑

◎建立者／大分県　◎建立年／昭和三十四年三月

昭和三十一年（一九五六年）四月十八日、大分県砂防課長、宮崎孝介は由布山山嶺中の津房川を視察中に、約八メートル下の川床に転落、翌十九日に不幸にも不帰の人となった。視察は、前年の由布山崩壊による津房川の荒廃に対し、アーチ式堰堤を築造することを決定されたのを受けての調査目的であった。この事故は、陣頭に立って現場の調査に当たっていた最中のことであった。

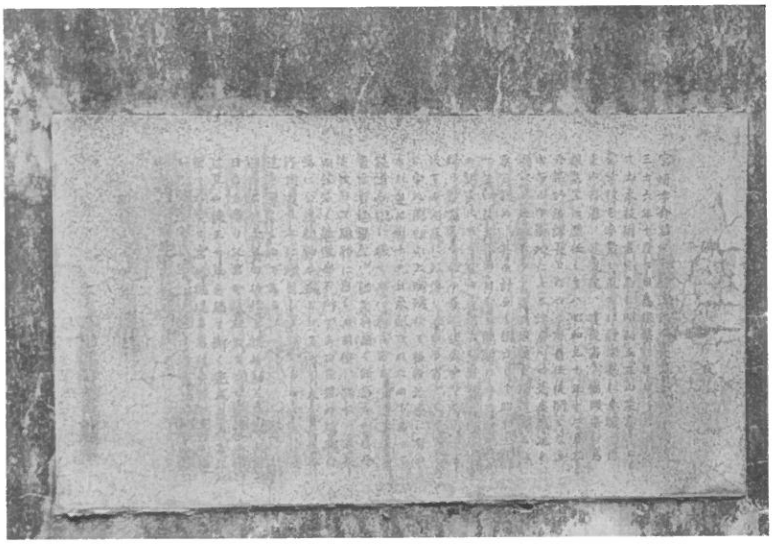
昭和三十四年に完成した堰堤は、宮崎堰堤と名付けられ、安心院町民の故宮崎君に対する感謝の念が示されたのである。碑もその時に建立されたもので、大分県知事、木下郁の名前で「公僕誠心の鏡」として功績が讃えられ、弔意が示されたのである。

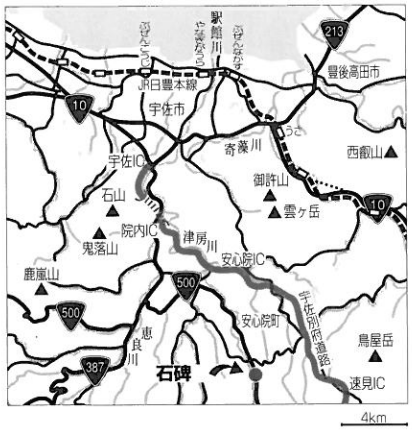
碑文

宮崎孝介君は宮崎治氏の長男として明治三十六年十月七日島根県に生れ、若くして土木技術者を志し昭和5年山梨高等工業学校を卒業し、直ちに静岡県に奉職爾来内務省建設院建設省　福岡県　島根県等に歴任して、昭和三十年十二月大分県砂防課長となったが、着任後間もなく由布山の崩壊による津房川の荒廃状況を視察し、同地にアーチ式堰堤を築造する必要を認め、其の計画を樹立して昭和三十一年四月十八日自ら陣頭に立って現場の調査に当り、身の危険をも省みず断崖を降り岩盤其の他の基礎調査中、不幸約八米下の河床に転落し、人事不省となり直ちに安心院町山上病院にて極力治療に努めたが、遂に翌十九日永眠されたのであって哀惜痛恨に堪えない所である君は資性温厚、信義に厚く旺盛な責任感を以って職務に当られ同僚、部下、上長の等しく尊敬する所であって、君の殉職は誠に公僕誠心の鏡として永く大分県土木行政史の上に燦として輝くものであり後進を導くものである國も君が永年の功績を認め勲五等双光旭日章を贈り又君が人柱となった堰堤工事は其の後三ケ年を経て漸く完成をみるに至ったので宮崎堰堤と名付け茲に碑を建て君の功績と尊い犠牲に対する感謝の微意を表する次第である

昭和三十四年三月

大分県知事　木　下　　郁





▶交通案内

◎JR柳ヶ浦駅より路線バスにて70分若林バス停下車　徒歩10分

◎国道10号法鏡寺交差点より20km　車で40分

◎宇佐別府道路安心院インター下車10km　20分

▶所在地

大分県宇佐郡安心院町大字若林

▶水系名及び渓流名

駅館川水系津房川

▶問い合わせ先

大分県砂防課　電話0975-36-1111

82 山梨県

治水興郷

◎建立者／武川村　◎建立年／昭和四十四年八月十四日

昭和三十四年八月十四日早朝、山梨県全域を猛烈な風と豪雨をともなった台風七号が襲った。この台風は富士川河口付近に上陸し、中部地方を縦断しながら日本海に抜けたが、山梨県内の被害はきわめて甚大なものであった。なかでも北巨摩郡武川村はもっとも激甚な災害を受け、死者二十三名を出したのをはじめ、村の中心部は濁流に呑まれ、巨石の河原と化した。

災害直後から国、県、村、村民をあげての全力の復旧が始まり、その年の十月には通常の生活ができるようになった。直轄砂防事業も同年から開始されるなどその後の復興事業は軌道に乗り、現在ではその効果が見事に現われ、観光や農業で繁栄を見るに至っている。治水興郷の碑は昭和四十四年八月十四日に建てられた。

碑文

表　面

治水興郷　岸信介書

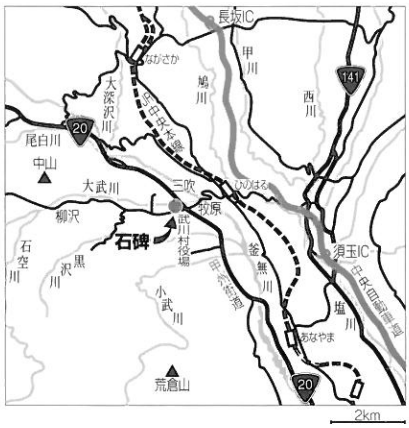
裏　面

昭和三十四年八月十四日富士川に沿ひて北上せる台風七号は峡北の天地を直撃し、本村の被害も激甚たり。前日来の豪雨車軸を流すが如く、晨明に至り決可の濁流忽ち全村を侵す。就中大武川の源流たる山地の大崩壊は山津波となり一瞬にして怒涛新開地を呑み去る。村民狂号或は高台に逃れ或は樹によぢ辛うじて難を避く、村落は寸断されて孤立し、三百三十八戸の住家百八十八町歩の田畑は流出し剰え二十三の人命奪わる。街に耕野に一木一草を溜めず唯巨石累畳の広漠たる河原を見るのみ、岸首相等具に惨状を視察、官民総力を結集して復旧に努力す。苦節営々四年有余、三十五億の巨費を費して一大復興事業は完成し、再び平和にして豊穣なる父祖の地を現前せり、茲に謹んで幽界に逝きし人々を偲び全国同胞の温情に感謝し且永久に治水興郷の実現せんことを祈念してこの碑を建つ。

昭和四十四年八月十四日武川村長　長坂元章撰

村を埋めつくした土石流に茫然と立ちつくす住民

村全体をのみこみ民家を破壊し暴れる大武川



▶交通案内

◎JR中央本線「ひのはる」駅より山梨交通バス　武川村役場前下車　徒歩3分

◎国道20号大武川橋付近

▶所在地

山梨県北巨摩郡武川村新開地地先

▶水系名及び渓流名

富士川水系釜無川右支大武川

▶問い合わせ先

建設省富士川砂防工事事務所 調査課　電話0552-52-7108

83 奈良県

◎建立者／高原区　◎建立年／昭和四十年九月

伊勢湾台風遭難者之碑

昭和三十四年九月二十六日に発生した伊勢湾台風は中部地方に上陸、満潮時と重なって大被害をもたらした。影響は三十九都道府県に及び、死者四千七百五十九名、行方不明二百八十二名で、被害総額は一一五二億円という史上最大の災害であった。奈良県の山間部においても河川の埋没や山崩れ、道路の欠壊などの被害が続出。とくに台風の経路となった宇陀郡、吉野郡の奥地では、孤立状態となった村も生じた。なかでも川上村高原区の堂前谷では山津波に襲われ、一瞬にして五十八名の死者を出す惨事が生じた。昭和四十年九月、高原区ではこの災害における被災者の慰霊と復興を願って「伊勢湾台風遭難者之碑」を建立した。

碑　文

表　面

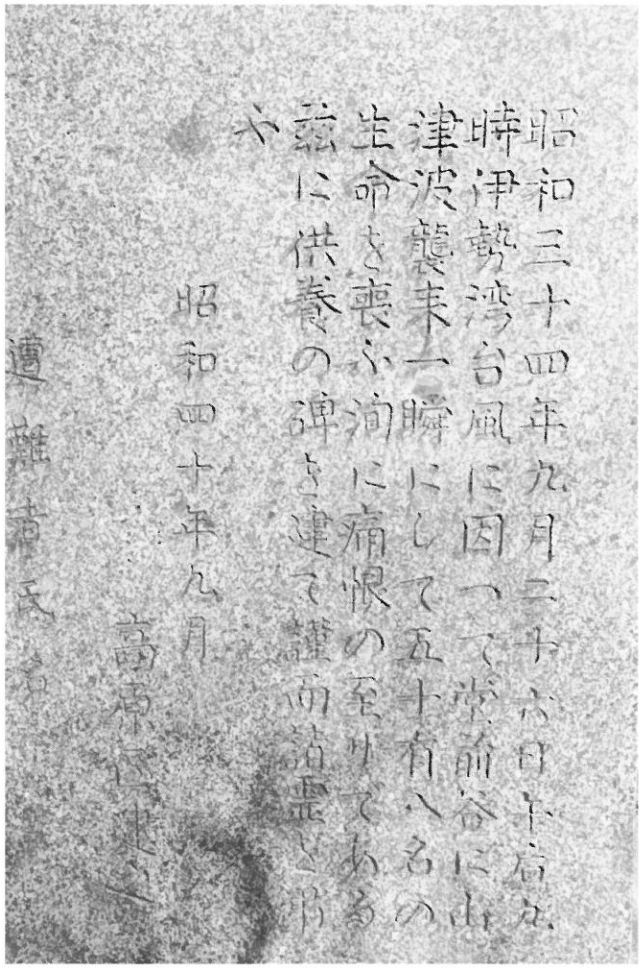
伊勢湾台風遭難者之碑

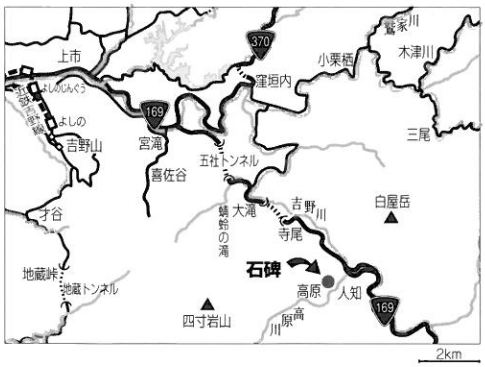
奈良県知事　奥田良三

裏　面

昭和三十四年九月二十六日午后九時伊勢湾台風に
因つて堂前谷に山津波襲来一瞬にして五十有八名の
生命を喪ふ洵に痛恨の至りである
茲に供養の碑を建て謹而諸霊を弔ふ

昭和四十年九月　高原区　建之





▶交通案内

◎近鉄南大阪線大和上駅下車

奈良交通バス柏木行き杉の湯バス停下車　徒歩40分

◎国道169号寺山トンネル左折より2.5km　車で5分

▶所在地

奈良県吉野郡川上村大字高原地先

▶水系名及び渓流名

吉野川水系高原川支流堂前谷

▶問い合わせ先

奈良県砂防利水課　電話0742-22-1101

84 静岡県

有備則無患の碑

◎建立者／中川根町（旧徳山村）◎建立年／昭和三十五年三月

静岡県榛原郡中川根町桃沢川は土砂の堆積により河床が高くなり、出水のたびごとに氾濫を繰り返して周辺の人々から「魔の川」と恐れられてきた。その被害は甚だしく、昔よりさまざまな対策が施されてきたが、決壊と流失を繰り返すばかりであった。

これに対し昭和二十五年から当時の全国治水砂防協会静岡県支部支部長・河井彌八翁を始め各関係者の努力が実り、昭和二十五年～三十一年の延べ六年の歳月と総工費四三六〇万円という巨費を投じ、砂防工事が施工された。

この砂防工事により「魔の川」は穏やかとなり、周辺の人々は土砂災害の脅威から逃れることができたのである。

石碑は昭和三十五年三月、このことを永く後世に讃えるため、中川根町（旧徳山村）により建立されたものである。

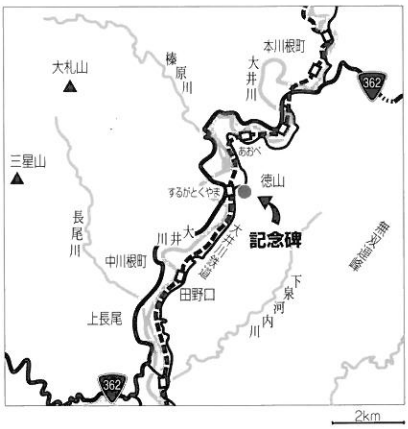
碑文

有備則無患（備えあればすなわち患無し）

揮毫者　全国治水砂防協会静岡県支部長
河井彌八

施工前の桃沢川

桃沢川　昭和27年度施工箇所



▶交通案内
◎大井川鉄道駿河徳山駅下車　徒歩約5分
▶所在地
静岡県榛原郡中川根町徳山
▶水系名及び渓流名
大井川水系桃沢川
▶問い合わせ先
静岡県砂防課　電話054-221-3044

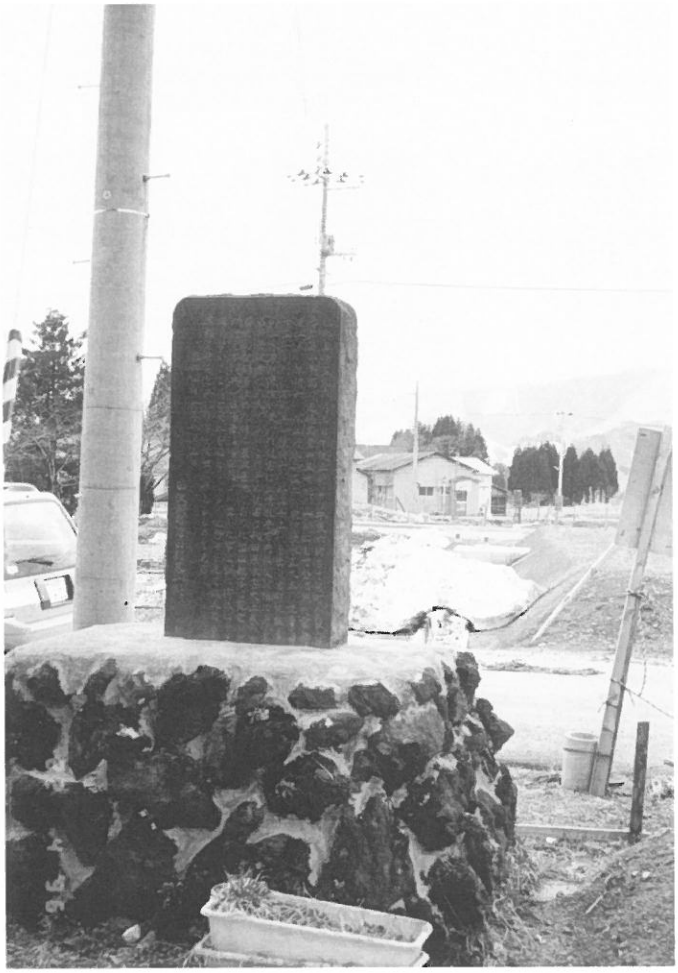
85 秋田県

田沢湖水害碑

◎建立者／田沢湖町沼田部落
◎建立年／昭和四十一年八月三日

昭和三十五年八月二日から三日にかけて、低気圧からのびる前線の影響により、田沢湖町周辺を連続雨量四百三十二ミリ、最大時間雨量九十九ミリの集中豪雨が襲った。これにともない、流出土砂等によって生保内川が氾濫し、秋田県にとっては記録的な大災害となった。

被害は田沢湖町沼田地区を中心に、死者十四名、行方不明一名、負傷者十四名というものであり、全壊流失家屋は二十五棟にも及んだ。さらに、土木農林関係の被害は二億数千万円を越えるという膨大なものであった。沼田地区では災害から七周年を迎えるに当たり、この大水害による被害者の冥福を祈るとともに惨事を後世に伝え、再びこのような災害にあうことのないよう念願して記念碑を建立した。



碑　文

表　面

田沢湖水害碑

裏　面

昭和三十五年八月三日午後三時より午後六時まで当町を襲った集中豪雨は、連続雨量四百三十二(粍、一瞬にして全壊流出家屋二十五、半壊六、床上浸水四百五十二、床下浸水五百九十三、死者十五(内行方不明二)、重傷一、軽傷十三を出し、当町施設の土木農林農業の受けた被害は二億数千万円に及び、他に国県所管被害は膨大であり、これ程の被害は秋田県水害史上未曾有の記録を止めた。特に、最激甚地であった沼田部落の死亡(行方不明共)負傷者は当部落より生じた事は誠に痛恨に堪えない。ここに七周年を迎えるに当たり記念碑を建て故人の冥福を祈ると共に惨事を後世に伝えるものである。

▶交通案内

◎JR田沢湖線「たざわこ」駅下車　羽後交通バス堂田行き沼田バス停下車　徒歩1分

◎国道46号生保内交差点より南へ500m　車で約1分

▶所在地

秋田県仙北郡田沢湖町生保内字沼田地先

▶水系名及び渓流名

雄物川水系生保内川

▶問い合わせ先

秋田県砂防課　電話0188-60-2531

86 長野県

雪崩殉難者慰霊碑

◎建立者／栄村青倉区　◎建立年／昭和五十一年十一月

昭和三十六年二月十六日午後八時、連日降り続いていた大雪により雪崩が発生し、長野県下水内郡栄村青倉地区の集落を襲った。夜間の雪崩だったこともあり、この災害は死者十一名、負傷者四名、家屋全壊四戸、半壊一戸を数え、長野県内でも記録的な被害となった。亡くなられたのは幼児からお年寄りまでの各年代にわたっており、いかに防ぎようがなかったかを物語っている。

この碑は、犠牲となられた人々を供養するとともに、雪崩によって甚大な災害を受けたという事実を教訓として再び災害にあうことのないように祈念して、昭和五十一年十一月に建立された。石碑の右面には十一名の殉難者の氏名と年齢が刻まれている。

碑文

表面
雪崩殉難者慰霊碑
裏面
昭和三十六年二月十六日午後八時、連日の降雪のため稀に見る大雪となり、西坂ノ上山頂近くで未だ曾てなかった大雪崩が起こり、一瞬にしてはしば、かじや、むこう、来るたの四戸が跡形もなく押倒され二十二名が生埋めとなる。近隣の応援を得て翌未明までにようやく十一名を救助したが、残る十一名は帰らぬ姿で発見された。
この悼ましき亡き人達の霊を慰め、今後再びかかる災害を起こさぬことを誓い、併せて救助に駆けつけられた近隣の皆さんはもとより、全国各地から寄せられた御厚意に対する感謝の意をこめてこの供養塔を建てる。

右面
殉難者
島田正巳　39才
島田圭二　31才
島田とめ　61才
島田豊子　8才
島田丈吉　78才
島田さつ子　23才
島田　21才
島田栄子　12才
池上　42才
池上一夫　11才
畦上一二三　3才

左側
S51. 11月
青倉区之建

▶交通案内
◎JR飯山線森宮野原駅下車
村営バス野沢温泉行き青倉バス停下車　徒歩3分
▶所在地
長野県下水内郡栄村青倉地先
▶問い合わせ先
長野県砂防課　電話0262-32-0111
長野県飯山建設事務所　電話0269-62-4111

87 長野県

◎建立者／大鹿村　◎建立年／昭和四十年十月

◆36災◆ 復興記念碑

昭和三十六年六月、梅雨前線に伴う集中豪雨が各地を襲った。とくに天竜川上流域では至る所で山腹崩壊が発生し、大災害となった。長野県下伊那郡大鹿村では五十五名の死者、行方不明者を数え、被害総額は四十億円にものぼった。石碑は昭和四十年十月にこの災害からの復興を記念して建てられた。

小渋川の氾濫

碑　文

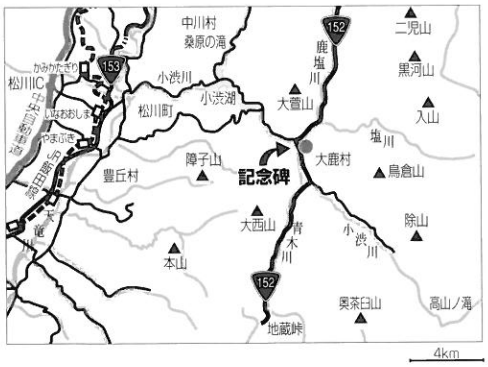
表　面

復興記念碑　　文部大臣　中村梅吉書

裏　面

昭和三十六年六月梅雨前線集中豪雨により前古未曾有の大災害を受け五十五名の尊き人命と四十数億円大災害を蒙りえが復旧について国県の援助と村民の一致協力により復興したので時の建設大臣中村梅吉氏の揮毫により之を建つ

昭和四十年十月建之　大鹿村



▶交通案内

◎JR伊那大島駅よりバスで大鹿村まで約50分

◎松川インターチェンジより車で約45分

▶所在地

長野県下伊那郡大鹿村

▶水系名及び渓流名

天竜川水系小渋川

▶問い合わせ先

建設省天竜川上流工事事務所　砂防調査課　電話0265-81-6417

88 長野県

◎建立者／天竜上流改修期成同盟会
◎建立年／昭和四十二年六月二十九日

◆36災◆ 自我作古の碑

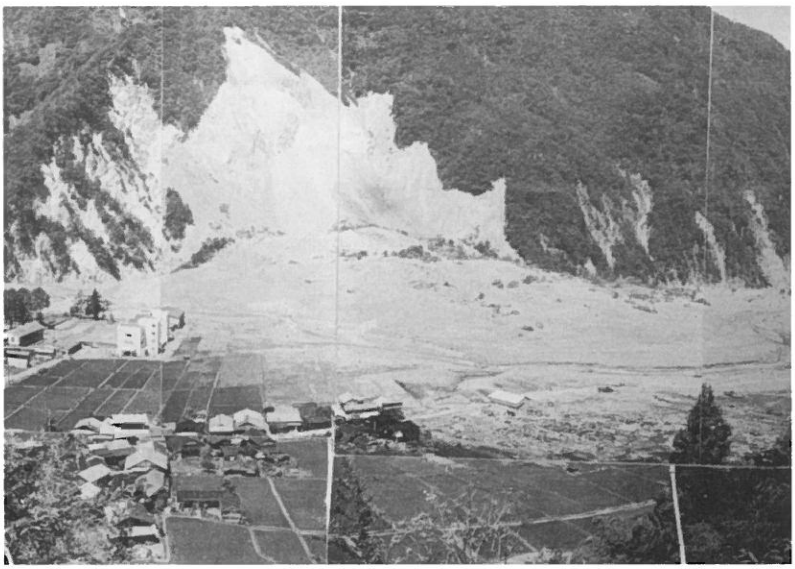
昭和三十六年六月二十九日の午前九時十分頃、長野県大鹿村の大西山が一瞬のうちに崩れ大音響とともに膨大な土砂が集落に襲いかかり、付近は瓦礫の河原と化した。その時、四十名の尊い生命が失われ建設省の職員六名も犠牲者となった。

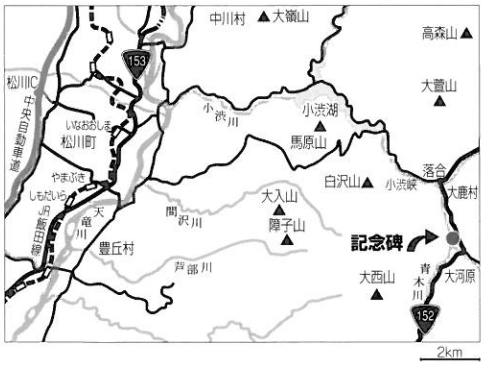
昭和四十二年六月二十九日、天竜上流改修期成同盟会によって建立された慰霊碑は、治山・治水の二本の柱を力強く横に結んで自然の調和をはかり、地域の開発はかくあるべきと、その姿を表現したものである。

碑文は、「われみずから、いにしえをさくす」と読み、《私達は自分みずから昔を回想し　古い事例にとらわれることなく　独創によって、新しい住みよい地域社会を開くことが必要である》という意味が含まれている。

碑文

表面
自我作古
裏面
豪雨此地を襲う山容忽ち變し西面は断崖となり奔流する泥土警戒中の建設省職員六名を呑む時に昭和三十六年六月二十九日午前九時なりき爾来六春秋今や復旧成りて記念碑の建立を見る茲に井口勲　今井洋子　太田利夫　中島功　吉田紀六　南坂知恵の芳名を刻し永へにその遺烈を讃へ以てその霊を慰め併せて治山治水の完璧を祈念しかかる悔の再び無からんことを冀う
昭和四十二年六月二十九日
天竜上流改修期成同盟会
会長　松井卓治撰竝書


大西山大崩落



▶交通案内
◎JR伊那大島駅よりバスで大鹿村まで約50分
◎松川インターチェンジより車で約45分
▶所在地
長野県下伊那郡大鹿村
▶水系名及び渓流名
天竜川水系小渋川
▶問い合わせ先
建設省天竜川上流工事事務所　砂防調査課　電話0265-81-6417

89

熊本県

◎建立者／五木村災害復興記念碑建立期成会有志一同
◎建立年／平成七年八月

災害復興記念碑

昭和三十八年八月十七日、前線の停滞による集中豪雨が熊本県球磨郡五木村の川辺川流域に降り続いた。この大量の降雨は同村の横手地区や鶴地区で山津波を発生させ、川辺川筋では死者、行方不明四十六名、家屋流失損壊二百八十一戸、床上浸水千百八十五戸、耕地流出埋没百五十ヘクタール、冠水千二百ヘクタール、橋梁被害八十六ヵ所を数える甚大な被害となった。

各地の被災地は国の激甚災害の指定を受け、県、村はもとより村民の懸命の努力により、復興をなしとげた。そこで平成七年八月、再びこのような災害が発生しないよう、またこの地域が平和でますます発展するよう願い、災害復興記念碑を建立した。

碑文

表面

災害復興記念碑

裏面

災害復興記念碑

昭和三十八年八月十七日、本村全域にわたって突如として襲った集中豪雨は、甚大なる被害をもたらした。特に、当横手地区や鶴地区に発生した山津波による大災害は、まさに生き地獄そのものの様相であった。死者十名、行方不明一名の尊い命が水魔の犠牲となられ、又横手地区では全戸が流出した。

各地の被災地は、国の激甚災害の指定を受け、県、村当局はもとより村民の懸命の努力により、面影はないほど様変わりし、立派に復旧し今日に至っている。

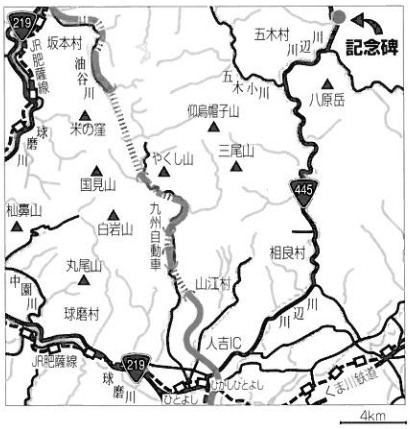
この度村当局において、この地に公園を整備されるにあたり、再びこのような災害が発生しないよう、又この地域が平和で益々発展することを願い、この記念碑を建立したものである。

平成七年八月

災害復興記念碑建立期成会

有志一同

昭和38年災害　横手谷からの土砂流出状況



▶交通案内

◎JR肥薩線人吉駅下車　産交バス宮園行き　上荒地行き横手バス停下車徒歩2分

◎九州自動車道人吉インターより国道445号を約300km　車で50分

▶所在地

熊本県球磨郡五木村宮園地先

▶水系名及び渓流名

球磨川水系川辺川

▶問い合わせ先

建設省川辺川工事事務所 工務第二課　電話0966-23-3174